

<平成29年度>

鳥取県文化芸術事業

# 評価報告書

《本編》

鳥取県文化芸術事業評価委員会

# ～ 目 次 ～

I	総合評価	1
II	実施結果概要	
1.	実施事業一覧	4
2.	評価の体系	4
III	事業別評価	
1.	第15回鳥取県総合芸術文化祭・とリアート2017メイン事業 とリアートダンスプロジェクト公演「魔公部主」	5
2.	第8回とっとり伝統芸能まつり（鳥取県地域振興部文化政策課）	11
3.	第61回鳥取県美術展覧会（鳥取県地域振興部文化政策課）	18
4.	第15回鳥取県総合芸術文化祭・とリアート2017中部地区事業（中部地区企画運営委員会）	22
5.	第15回鳥取県総合芸術文化祭・とリアート2017西部地区事業（西部地区企画運営委員会）	27
6.	第15回鳥取県総合芸術文化祭・とリアート2017東部地区事業（東部地区企画運営委員会）	32
7.	第39回鳥取県書道連合会展（鳥取県書道連合会）	36
IV	専門家評価	39
	○鳥取県文化芸術事業評価委員会 委員名簿	42
	○鳥取県文化芸術事業評価委員会 事業別評価報告執筆担当一覧	43
	○鳥取県文化芸術事業評価委員会 評価委員会の開催状況	44
	○鳥取県文化芸術事業評価委員会設置要綱	45

（別冊）平成29年度 鳥取県文化芸術事業 評価報告書《資料編》

# I 総合評価

## 1. 今年度の評価方法

評価方法は、昨年度と基本的には同様である。大項目、中項目を達成するための小項目の目標は、各事業の実施者に設定してもらった。

評価の客観性を確保するため、各事業とも複数名の評価委員が検証することとしたほか、事業開催当日のみを対象として評価するのではなく、プレ事業やリハーサルなど、制作過程や関連事業などについてもできる限り実地検証を行い、評価の材料とした。

その上で、実施者が設定した目標に対する自己評価、観客アンケート、実施者アンケートなどを踏まえて、実地検証した委員それぞれが評価レポートを執筆。そのレポートを、事業ごとに定めた主筆・副筆担当が総合的にまとめたものを委員会で議論、意見交換し、検討した上で各事業の評価原案を作成した。

事業実施者との認識の相違や事実関係の誤認防止のため、実施者に評価原案を提示し、意見や指摘をいただいた上で、より適正な内容や表現となるよう原案を修正し、評価報告書としてまとめた。

達成度は、昨年度と同様に「達成」3点、「概ね達成」2点、「一部達成」1点、「未達成」0点と数値化し、パーセンテージで表した。

また、今年度より事業実施者、評価委員会ともに評価欄に【成果】と【課題】を明記することとした。

報告書は、本編と資料編から成る。本編は実施者の自己評価コメントと評価委員会のコメントを併記。写真も組み入れ、事業の様子を分かりやすくした。資料編には入場者数やアンケートなどの数値的な定量目標と実績を表記。事業ごとにグラフ化もし、視認しやすい内容としたほか、各事業のチラシも掲載した。

## 2. 今年度の事業評価

評価対象とした事業は、次の通り、合わせて7事業である。

とリアートの事業についてはプレ事業やリハーサルなども含めて検証。鳥取県文化政策課主催事業は鳥取県美術展覧会の各会場に加えて公開審査も実地検証し、それぞれ評価の判断材料とした。鳥取県文化団体連合会加盟団体主催事業については、助成金額の大きな基本型モデル事業を評価対象とした。

- ① とリアート・メイン事業（1事業）
- ② とリアート・東、中、西部の各地区事業（3事業）
- ③ 鳥取県文化政策課主催事業（とっとり伝統芸能まつり、鳥取県美術展覧会の2事業）
- ④ 鳥取県文化団体連合会加盟団体主催事業の基本型モデル事業（1事業）

### （1）とリアートメイン事業 演劇的ダンス「魔公部主」

設定された目標の達成度は、事業実施者の自己評価および評価委員会による評価のいずれも90%以上の高い値となった。さらにアンケートによる観客満足度は94.6%の高さを誇っており、このうち65.1%が「とても満足」と回答していることから、質の高い事業となったことは明らかである。

アンケートについて、満足度だけにとどまらず事業に対する鑑賞者の意見を総合的に知るためには回収率の高さが求められるが、本事業の回収率は、昨年度メイン事業の30.3%を大きく上回る45.1%であり、傾向を知る上で十分な数値となった。これは過去のメイン事業と比べても特筆すべき高い回収率である。

また、入場者数も目標の1000人を上回る1201人であった。これは昨年度メイン事業実績の660人の倍に近い数である。アンケートによると「本事業を何で知ったか」の回答のうち、口コミが61.9%を占めており、「オール鳥取」で臨んだ関係者一人一人が熱心にPR活動に汗を流した成果が出ている。

これら目標達成度の高さをはじめ、多くの入場者とアンケート回収率の高さ、そしてアンケート結果によって分かる質の高さからも、本事業は大成功した事業であるといえる。

課題について、客席によっては舞台上の幕が妨げとなり一部が見えなくなっていたのが残念。これは基本的なことであり、舞台設営やリハーサル時に観客目線でしっかりとチェックする必要がある。

総合的には、近年指摘している通り、過去のメイン事業の多くが単発の打ち上げ花火で終わっており、公演成果が、規模を縮小した再演や地域で同様な事業の取り組みなどとして、地域の財産となって根付いたものはわずかである。新生とリアートとなって以降、メイン事業公演の事業実施者である委員会は事業終了後に解散してしまうというシステムの中で、巨額の県費を使って開催されるメイン事業の成果を地域に活かすためにどうすればよいかは抜本的な課題である。成果を地域に残せるような取り組みを期待する。

同時に、巨額の事業を受託した事業実施者の事務負担の繁雑さも問題である。文化活動者の多くは日常生活や文化芸術活動、仕事（職務）を抱えており、事業の事務に避ける時間は限られる。あまりに繁雑であると、事業を受託できる組織が限られてしまう懸念もある。年度をまたぎながら3年をかけて創り上げる事業であり、予算配分や年度ごとの決算方法などについて、見直しが可能な点があれば検討してほしい。

## (2) とりアート各地区事業

東部、中部、西部の3地区ともアンケートによる満足度は95%以上と高く、各地区でカラーは異なるものの、それぞれ来場者のニーズをとらえた企画を実施した成果が表れている。また、アンケート回収率は3会場のいずれも40%以上の高い値であり、これらの点を高く評価したい。

定量目標数の設定と実績について、延べ人数が実数かやフードコーナー来場者も人数に含めるかなどの設定基準が会場ごとに異なっており、3会場とも同基準になるように意見交換して統一してほしい。

東部事業は、質の高い催しが多く、効果的な会場レイアウトで落ち着いた雰囲気の中、フリースペースのステージイベントや展示室の催事を楽しむことができた。主な課題は、2階の会場とのつながりが分かりにくく、全体を自然に周遊できるような工夫が求められる。人材育成では大学生との連携強化を望む。

中部地区事業は、メイン事業として演劇公演を前面に打ち出した。公演の質、アンケート回収率、感想による満足度のいずれも高かった。支柱を立てて催しにアクセントをつけるのは良い方法で評価したい。主な課題としては、オープニングイベントと小ホールイベントが同時刻にスタートするのは改善してほしい。2階会場の催しへの誘導方法の配慮や屋外フードコートでの荒天時対策も必要であった。

西部地区事業は、近年、米子市だけでなく地区内の市町村での会場も設け、とりアートの裾野の拡大に取り組んでいるのは素晴らしい。今年度は境港会場が設定され、水産まつりとの同時開催で多くの来場者を得た。とりアート賞受賞団体によるステージの盛り上げや「うみ」「まち」のコンセプトを明確にして、企画・展示を実施したのも良い取り組みである。主な課題はアンケート配布枚数が目標1500枚、実数来場者2,291人に対し配布実績が509枚だったことだ。ニーズの掘り起こしにアンケートは重要であり、対策を求めたい。

## (3) 鳥取県文化政策課主催事業

「第8回とっとり伝統芸能まつり」では、入場者数が1,521人と多かったものの、昨年度実績の1,597人にわずかに及ばず、目標の1,700人も下回った。入場者数の増加に向けた努力が望まれる。とはいえ、平成27年度実績1,153人、26年度実績956人よりも多く、まずまずの成績を収めたといえる。アンケート回収率は目標の40%には届かなかったが、全体の傾向を示すとされる30%以上で、昨年度実績の36.4%を少しだが上回る36.9%であった。観客満足度は99.3%と、昨年度実績の88.1%から大きく伸ばしている。昨年度指摘していた「満足度の向上」に向けて工夫された結果だと評価したい。

また、運営面において観客目線で細かな点まで行き届いており、アンケートにも係員の対応の良さを挙げる声が多数あるのは素晴らしいことだ。

県外、海外団体の質の高い演目の鑑賞機会を県民に提供できるのは本事業の特色の一つでもある。今年度、特に「阿波踊り」の質の高さと観客の盛り上げ方は秀逸で、観客満足度を押し上げる要因になったと思われる。県内活動者に発表の場を設けるだけでなく、交流会の県内参加者を増やすなど活動者の意識向上を積極的に図り、県内伝統芸能団体の力で盛り上げを引っ張っていけるようになることを期待したい。

映像による団体や地域の紹介は、上演される伝統芸能の背景が分かる良い取り組みである。一方で、同じフォーマットでの動画では変化に乏しく単調となる。その中で北栄町は本事業のために独自に紹介映像を制作しており、その伝統芸能を育んだ町の魅力が伝わる内容であった。相手のあることなので簡単に改善することではないと思うが、他の自治体などでもこのようになれば望ましい。

「第61回鳥取県美術展覧会」(県展)について、入場者数が目標の9,000人を上回り10,099人となった。1万人を超えるのは18年ぶりのことで、県の人口が年々減少する中での成果であり大きく評価したい。一方、評価委員会が指標とする会期中の1日当たりの入場者数は、昨年度が296人/日だったのに対し、今年度が229.5人/日と下回ったのは残念。平成27年度の185人/日に比べると伸ばしているのでも、引き続き積極的な広報などで入場者増に努めてほしい。

観客満足度も目標の93%を超える96%と高水準であった。

アンケート回収率は、昨年度の13.6%からは向上したものの、目標の20%には届かず16.89%にとどまった。鳥取会場と倉吉会場ではいずれも20%以上の回収率を達成しており、目標を下回った会場での回収率向上の対策を講じてほしい。

一般応募者による応募点数が年々減少していることには危機感を感じる。背景には応募者の固定化や高齢化があると考えられ、若年層をはじめ、新たな応募者増に向けた取り組みが必要だろう。また、アンケートで「展示方法」の工夫を求める声が多い。入場者は作品鑑賞の際に作品の背景や技法、作者を知ることにより深く理解したいと望んでいるようだ。展示の工夫には様々な方法があろうが改善に向け対応してほしい。

#### (4) 鳥取県文化団体連合会加盟団体主催事業・基本型モデル事業

今年度の評価対象事業は、第39回鳥取県書道連合会展のみであった。

本展の質の高さは安定しており、観客満足度は昨年度の84.8%をわずかながら下回ったものの目標の80%以上となる84%の実績であった。「作品集」も素晴らしい出来栄で資料としても重要といえる。また、定番となった特別展示「童謡・唱歌を書く」は、親しみやすく鑑賞者に人気がある素晴らしい取り組みである。一般県民の鑑賞者目線でいえば、「書」というと、何が書いてあるのかに意識がいきがちであり、作品全体から何を感じるのかという発想に思い至る人が少ないだろう。筆致やバランスなど、「書」の作品そのものをどう鑑賞すればよいかについて、見方を広く教宣してほしい。そうすれば、「書」への理解が深まり、作品鑑賞の楽しみも増えると考えられる。

せっかくの質の高い作品展であるが、もったいないことに入場者数が目標の800人及び昨年度実績の632人のいずれも下回る468人とどまった。また、アンケート配布枚数も目標の1,000枚に対して実績が300枚と少なく、回収率も31.3%で目標の50%に及ばないなど、定量目標の達成に課題を残した。昨年度の評価においても入場者数を増やす取り組みを求めており、さらなる工夫が求められる。

### 3. 今後の評価に向けて

少子高齢化と人口減に比例して、文化芸術分野の活動者や鑑賞者も減少してきており、将来のためにも心を豊かにする文化芸術の活動者の育成や新たな鑑賞者の掘り起こしが求められている。

今回、県展の入場者数が18年ぶりに1万人を超える実績を残したが、これは潜在的な鑑賞者がまだまだ眠っており、方法によっては、その掘り起こしが可能であることを示している。そのためには、文化芸術活動に参加したり鑑賞することが、その人自身の人生を豊かにすることを県全体でもっとPRしていくことが必要であろう。

鑑賞者の感動や満足度の向上および活動者の意識や技術を上げていくためには、事業の質の向上や課題の抽出が必須である。それにはアンケートの回収率アップが重要となる。鑑賞者の生の声を吸い上げ、どのように事業に反映させていくか、綿密な分析とそれに基づく対応が求められる。

また、外部の視点で各事業を検証する本評価委員会の評価をどう事業に生かすかも同様である。

そのためには、本評価委員会の評価シートの抜本的な見直しも必要となってくる。とりアートの各地区事業など、試行錯誤の中で工夫されてきており、県民ニーズとそれらにどう対応するののかも、5年、10年前とは異なってくる面も当然ある。評価シートもそれらに合わせて柔軟に見直していかなければならない。

現在の評価シートは細分化された小項目を設け、事業実施者に細かな目標設定をしてもらっているが、細分化されているがゆえに、異なった中項目において、同じ内容の小項目の目標が設定されることもしばしば見受けられる。

定量目標は数字を比べられるため明快で分かりやすいが、質や総合的な観点で図る定性目標については、目標を細分化しすぎると、時には「木を見て森を見ず」ということにもなりかねない。よりマクロな視点で、「伝承と再発見」「創造」「伸張」「拡大」「育成」などの大項目の目標について取り組んでもらえるような評価シートにすることも視野にいれ、評価の内容をより現場で生かしてもらえるように努めたい。

評価委員会は単に事業を採点するためだけに存在するわけではない。事業実施者と評価委員会が両輪となって事業改善に向けて進むことで、さらなる県内の文化振興につなげていきたいと考える。

平成30年4月

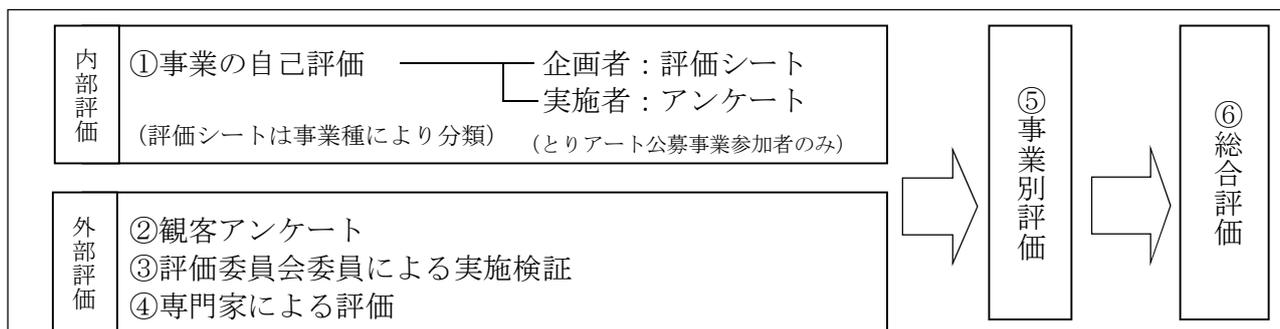
鳥取県文化芸術事業評価委員会  
会長 尾上 明

## II 実施結果概要

### 1. 実施事業一覧

番号	主体	団体名	事業名	期日 *..プレイベント	実績 (目標数)				
					入場者数 [人]	アンケート 配布枚数 [枚]	アンケート 回収枚数 [枚]	アンケート 回収率	満足度
1	鳥取県総合芸術文化祭実行委員会	とりアートダンスプロジェクト	とりアート2017メイン事業 演劇的ダンス「魔公部主」	5月7日(日)	1,201 (1,000)	1,201 (1,000)	542 (800)	45.1% (80.0%)	94.6% (80.0%)
2	鳥取県	鳥取県地域振興部文化政策課	第8回伝統芸能まつり	6月18日(日)	1,521 (1,700)	1,521 (1,700)	561 (680)	36.9% (40.0%)	99.3% (99.0%)
3	鳥取県	鳥取県地域振興部文化政策課	第61回鳥取県美術展覧会	9月16日(土) ～11月27日(日)	10,099 (9,000)	10,094 (9,000)	1706 (1,800)	16.9% (20.0%)	96.0% (93.0%)
4	鳥取県総合芸術文化祭実行委員会	中部地区企画運営委員会	第15回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2017中部地区事業	11月18日(土) ～11月19日(日)	5,089 (5,000)	1,577 (1,600)	776 (640)	49.2% (40%)	96.5% (90.0%)
5		西部地区企画運営委員会	第15回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2017西部地区事業	*9月10日(日) 10月8日(日) 12月2日(土) 12月3日(日)	2,291 (2,000)	509 (1,500)	262 (525)	51.4% (35.0%)	94.6% (70.0%)
6		東部地区企画運営委員会	第15回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2017東部地区事業	*9月10日(日) 12月16日(土) 12月17日(日)	3,592 (7,000)	1,016 (1,800)	411 (360)	40.5% (20.0%)	95.6% (95.0%)
7	鳥取県文化団体連合会	鳥取県書道連合会	第39回鳥取県書道連合会展	3月14日(水) ～3月18日(日)	468 (800)	300 (1,000)	94 (500)	31.3% (50%)	84% (80%)

### 2. 評価の体系



### Ⅲ 事業別評価

#### 第15回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2017メイン事業

#### とりアートダンスプロジェクト公演「魔公部主」(とりアートダンスプロジェクト公演実行委員会)

平成29年5月7日(日)米子コンベンション

#### 文化芸術事業評価シート (とりアート事業 (総合芸術))

評価指標 (=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
裾野の 拡大	県内の文化芸術の裾野の拡大	オーディションによって出演者を募ることにより、地元のダンサーに活動の場を提供します。	<b>達成</b> 【成果】 動画応募にした事はターゲット層にマッチしていて良かった。人前で審査されることに抵抗がある人でも応募しやすかった。	<b>達成</b> 【成果】 オーディションの募集期間が1ヶ月と短い期間にもかかわらず、動画という新しい形式での応募方法によって、たくさんの地元のダンサーが自由に応募に参加しやすくなり、レベルの高い人選ができていているように感じた。
		子供から大人まで、特に芸術鑑賞の機会が少ない若い世代も楽しめる舞台を制作することにより幅広く裾野の拡大を図ります。	<b>達成</b> 【成果】 とりアートの観客層として少なかった若い世代の興味を引くことができ、来場も多かった。子どもの出演者がいたことにより、小さい子どもの来場も多数見られた。	<b>達成</b> 【成果】 子どもには少し難しい内容にもかかわらず、出演者に多くの子供が参加しているため、来場者に家族連れが多く見うけられた。
		和太鼓を取り入れることにより異なる分野の愛好者にも鑑賞機会の拡大を図ります。	<b>達成</b> 【成果】 和太鼓が参加したことにより、太鼓関係者の来場も多く、初めてこのような舞台を鑑賞し興味を持ってもらうことができた。	<b>達成</b> 【成果】 ジャンルの異なる和太鼓が加わることで、これだけレベルの高い作品であれば、ダンスに興味がなく和太鼓に興味ある観客にとってダンスの素晴らしさを味わっていただけたと思う。反対に和太鼓に興味がなく会場にいられた観客にとっては、和太鼓の魅力を味わっていただけたと思う。和太鼓演奏が場面転換のみというのは、多少もったいないような気がした。
	県民誰もが気軽に文化芸術に触れる機会の提供	パブリシティ、SNS等を活用し、情報が行き渡るように広報活動を実施し、多くの県民のみならずとりアートに興味を持ち、鑑賞する事によって文化芸術に触れる機会を提供します。	<b>概ね達成</b> 【成果】 各マスコミの協力もあり、多数のPRの機会を得ることができた。ホームページとFacebookで常に情報を流した。 【課題】 最後の1週間にFacebookの個人ページで有料広告を出したところ、アクセス数がとても多くあり、もっと早い時期から実施して入れれば良かった。	<b>概ね達成</b> 【成果】 インターネット利用のPRについては若年層は反応が早いので有効で無駄のない広報活動であったと思う。 【課題】 Facebook 個人ページからの有料広告費は、現在の規則には明文化されていないため、公式 Facebook ページ等での広告掲載を検討するとともに、個人ページでのシェアなどの広がりを検討する余地がある。

		メイン事業においてダンスというジャンルに取り組む事により、これまで親しみの無かった県民にもとりアート事業に興味を持っていただけるよう努めます。	<b>概ね達成</b> <b>【成果】</b> ダンス愛好者の若い世代の多くは、文化芸術を鑑賞する機会が稀薄であると思われるが、「ダンスならば」ということで来場につながる事ができたように思う。とりアートならばこそ、これだけのスケールのものできるということを知ってもらふ機会になったと思う。 <b>【課題】</b> 実績数よりもより多くの観客に来場して欲しかった。	<b>達成</b> <b>【成果】</b> 「とりアート」を知っている観客や出演者、関係者は「とりアート」ならば、これだけの大きなイベントができるということを実感できたと思う。「とりアート」の存在を知らなかった人たちにとっては、このレベルの高いダンスパフォーマンスが「とりアート」をPRする良い機会となったと思う。
		入場券の価格設定をできるだけおさえ、多くの県民が鑑賞しやすいようにします。	<b>達成</b> <b>【成果】</b> 入場料金を安価設定にしたことにより、券売がしやすかった。それが観客動員につながったかどうか分からないが、とりアート事業においては、できるだけ料金をおさえたいほうが良いと感じた。	<b>達成</b> <b>【成果】</b> 入場料が低料金であることが集客につながるので、安価であることは大変望ましいことではある。
頂点の伸張	県内の文化芸術の質の向上	異なるジャンルのダンスが一つの作品を創り上げていくことによって新たな交流を生み、それぞれの活動のレベルアップを図るとともに、意識を高めていきます。	<b>達成</b> <b>【成果】</b> 異なるジャンルのダンサーが集まったことによって新たな交流が生まれ、お互いに多くのことを学び合うことができた。出演者同士の交流も広がり、それぞれがまたステップアップを目指す意識が生まれた。	<b>達成</b> <b>【成果】</b> 異なるジャンルとの交流は子どもの育成と技術のステップアップに繋がりが、小さな子どもにとってはとても良い効果をもたらしていると思う。礼儀や秩序なども学ぶ良い機会になったと思う。
		個々の活動では成し得ない作品に取り組むことによって次のステップに進めるような基礎作りをしていきます。	<b>達成</b> <b>【成果】</b> 一つのジャンルだけの活動と違った、新たな可能性を見つけることができ、次の機会を待ってはいけない、自分たちで何かしらの行動を始めなければという声が上がった。また一緒にやりたいという気持ちがほぼ全員の心に刻まれ、そのことこそが次へと進む大きなステップとなり、気運が高まった。	<b>達成</b> <b>【成果】</b> 参加のダンサーの中には、このステージをきっかけに県内だけでなく中央に進出して日本代表となれることを望むような人物はいないものだろうか。そのために数多くの舞台を踏むことも重要であろうが熱の冷めないうちに挑戦してほしいものである。指導者の手助けも必要であろう。期待をしている。
	県民ニーズの把握	観客アンケートを実施し、県民ニーズの把握に努めます。	<b>達成</b> <b>【成果】</b> アンケート回収率が非常に高かったことで、多くの観客の意見を聞くことができた。	<b>達成</b> <b>【成果】</b> アンケート回収の館内放送とスタッフの声掛けが十分なされていた事もあって、アンケート回収目標数が実績を上回ったことは素晴らしいことである。それだけ関心の深かった演技となっていたのではないだろうか。
	良質な作品の提供	誰もが知るシェイクスピアの戯曲作品を、あえて非言語表現であるダンスによって心情を表現し、新たな世界観での作品を制作します。	<b>達成</b> <b>【成果】</b> 少し敷居が高いというイメージのシェイクスピア作品を、とても分かりやすく興味を引く演劇的ダンスという表現方法による作品として制作した。	<b>達成</b> <b>【成果】</b> シェイクスピアの戯曲作品を卓越したダンスによって表現し、質の高い舞台作品を提供した。

		<p>プロジェクショ ンマッピングを 取り入れた演出 により、よりス ケールの大きい 作品として楽し んでいただけ るようにします。</p>	<p><b>概ね達成</b> 【成果】 プロジェクションマッピングが、ど れだけ生かすことができたかとい う点では、まだまだ勉強不足だが、 オープニングタイトルの映像演出 でまず作品のスケールの大きさを アピールすることができたように 思う。 【課題】 プロジェクションマッピングの 効果について、結果的に、技術 面も含めて、イメージとおりに うまくいかなかったため、もう 少し費用をかければ良かった。 また、劇場でない会場で公演す ることを考慮し、現状の把握や 色々と対策を練る必要があった。</p>	<p><b>概ね達成</b> 【成果】 ステージライトやプロジェク ションマッピングの効果はスケ ールが大きく、照明の暗いステ ージを引き立たせ効果的で良 かった。 【課題】 ステージの画面に描かれた文 字はスモークがかかり読みにく く、パンフレットやチラシのあ らすじを読まずに鑑賞した観 客たちには難しく感じたであ らう。文字中の漢字の読み方 や内容が子どもには難しく 感じた。果たして理解でき たのだろうか。</p>
人材育成	活動者(指導者、後継者、担い手)の育成	<p>県内の指導者によって作品を創り上げてくことにより、指導者のレベルアップを図り、今後の活動に活かしていけるようにします。</p>	<p><b>達成</b> 【成果】 中央から指導者を招いての制作では無かったことにより、県内の指導者が十分に力を発揮することができ、指導者がレベルアップしていくことができた。</p>	<p><b>達成</b> 【成果】 県内だけの指導でこれだけの作品が出来上がったことは素晴らしい。</p>
		<p>それぞれのジャンルの特性を生かしつつ新たな表現に発展させていく事により、試行錯誤、工夫を加えるなど、多くのことを学ぶ場とします。</p>	<p><b>達成</b> 【成果】 指導者たちにとって、それぞれのジャンルを超えたところに工夫や試行錯誤を重ね、稽古を重ねるごとに振付だけにとどまらない多くのことを学ぶ場となった。 そして、そのすべてのことが今後のそれぞれの活動、そしてとりアートへとつながっていくことと感じた。</p>	<p><b>達成</b> 【成果】 本番間近の稽古の様子を伺うと、厳しい指導の中にも出演者との親しげな雰囲気、指導者と出演者との信頼を感じさせるものがあった。 本番の子供たちの笑顔がリハーサルの時の表情と違ってとても良かった。やはり笑顔があるか無いかで出演者の余裕と自信が現れ観客への印象がかなり違うものである。</p>
		<p>子供たちが参加することによって次世代の育成に努めます。</p>	<p><b>達成</b> 【成果】 子どもたちにとっては少し難しい作品ではあったが、このような場に参加することこそ意義があり、大人の参加者たちの姿、そして何より制作の様子などにふれるという大きな経験をしたことはしっかりと心に残り、またこのような大きな舞台に立ったということによって自信が生まれ、ダンスのみならず様々な場面にかき立てられることと思う。</p>	<p><b>達成</b> 【成果】 内容の難しい作品ではあったが、ダンスレベルの高い技術を目の前で学ぶことは、参加した子ども達にとっては素晴らしい体験だと感じた。更なるダンスの育成に期待したい。</p>
	鑑賞者の育成	<p>シェイクスピアが原作という少し内容の難しいものですが、理解し楽しめるようにパンフレットに分かりやすく解説を入れます。</p>	<p><b>概ね達成</b> 【成果】 内容を少しでも理解しやすくするためにパンフレットに登場人物をイラスト付関連図で表し、内容解説も詳しく載せた。関連図が分かりやすくて良かったという声を多く聞いた。 【課題】 パンフレットの解説を事前に読んでいただくことを場内アナウンスで促しても良かったかもしれない。普通のことだが、鑑賞に慣れていない観客を育てる意味では必要だったかもしれない。アンケートにも前もって読</p>	<p><b>概ね達成</b> 【成果】 パンフレットの構成は文字も大きくとても分かり易かった。パンフレットの登場人物の写真掲載により、来場者の中には知り合いが出演しているらしくパンフレットへの興味ある様子があちこちで伺えた。 【課題】 パンフレットに書かれたあらすじは子供にとっては難しく感じた。会場への入場時間をあと30分早めていれば前もってパンフレットに目を通す時間があったのではないだろ</p>

			むように言って欲しかったという意見があった。	うか。
		次世代を担う子供たちや学生が鑑賞しやすいように学生・子供の入場券設定をし、文化芸術を楽しみ、今後の鑑賞へのきっかけとなるようにします。	<b>達成</b> 【成果】 当初、チケットの料金設定には賛否両論あり、低価格はレベルの低さをイメージさせるのではという意見もあった。しかしながら、とりアートは文化芸術に触れる機会を拡げるという目的もあり、親しみやすく鑑賞に向かいやすくするという使命をもつ事業だと考える。特に子どもや学生には「お金を払って観に行くのがもったいない」という観念を払拭する料金設定が必要であり、景気の悪い社会情勢下では配慮が必要と考える。安かろう悪かろうの内容で無く高いレベルのものを提供することにより、また別の機会に少し高くても観たいという意識を芽生えさせる事こそが鑑賞者の育成につながると思う。	<b>達成</b> 【成果】 地方において舞台芸術の料金設定はなかなか悩ましいところである。料金が安いのは「とりアート」だから、更には税金が使われているからということをもう少し県民に認知してもらう必要性を感じる。実際すべての人に興味を持ってもらおうと思うこと自体難しいのだから、低価格の設定は「とりアート」というものとしては妥当だと思う。
人材育成	育成した人材を活用する場の提供	アートマネージャーが実際に制作にかかわることによって企画運営の実務を学んでいけるようにします。	<b>達成</b> 【成果】 制作に関わるすべてにアートマネージャーが参加することにより実務を学んでもらうことができたと思うとともに、多くの助けとなってもらうことができました。次は初期における企画提案から係わっていただきたい。	<b>達成</b> 【成果】 制作者及び指導者のレベルの高さを感じるステージであった。このようなスケールの大きな舞台では経験豊富なアートマネージャーが本領発揮できる場となり、アートマネージャーというものがかなり重要な立場であることを感じた。
総括			92.1%	94.1%

### ○自己評価総括【成果】

- ・「磨公部主」は、まったく知る人の居ない創作作品ではなく、多くの人が名前だけでも知っているシェイクスピアのマクベスをもとに創った作品なのである程度のレベルの高さをイメージし、期待してもらうことに成功したと思う。実際公募で集まったダンサーにはプロや指導者も多く、狙い以上の結果を生むことができた。
  - ・プロや指導者が参加したことにより、終了の後も多くの人たちに伝えていくことが期待できる。彼らは終了後、3年後の次をただ待ってはいけないう、何か考えて動こうと語り合っていた。このことこそが育成であり舞台の成功以上の成功と言えるのではないかと。実施者アンケートを見ても、その思いが多く書かれていた。
- 前述したが、オール鳥取で挑んだからこそ生まれた素晴らしいチームワークもそれぞれの心の大切な宝物となった。

### ○自己評価総括【課題・その他事業に関する意見、感想など】

- ・今回の事業において強く感じたのは、事務的な仕事の繁雑なことであり、運営管理はまだしも金銭管理、税務処理などが非常に大変だった。年度をまたぐことにより、決算が2度あったこと、しかも本番間近の3月末に決算をしなければならなかったこと、実施年度にならないと大半の予算が下りないこと、それも4月28日にやっと振り込まれるという実態。そのためぎりぎりまで小道具が買えなかつたりもした。立て替え払いも多かったのも、委託を受けたところが支払い能力を持っていなかったら大変だと思う。準備年度にもう少し予算をとれるように改善して欲しいと思う。できる限り早め早めの準備に努めて事業を進めていきましたが、4月以降でないで予算を使えないということにかなり足を引っ張られた。5月という実施時期を選んだ事によるリスクは大きかった。ただ、出演者の都合を考えるとベストであったことも事実であった。3年事業ならばそれなりの予算配分と決算方法を見直していただきたいと思う。決算が1回で良ければずいぶん楽である。
- ・出演者オーディションについては、とりアート自体の認知度、位置づけもまだ高くは無いようで、告知の周知には課題が残る。募集を知っていても応募に至らないこともあり口コミに頼る部分が多かった。とりアートの説明からしなくてはならなかった。

- ・人材育成について、アートマネージャーの役割がどこからどこまでなのかよく分からないが、本気でするならばじっくり全部に関わってもらわないと、本当の育成にはならないと思う。そして、ある程度のレベルの能力が必要だとも思う。そういう人材を見つけて育成する為には、拘束時間も必要となるので、それなりの対価も必要になると思う。

#### 【成果】

- ・経験豊富なスタッフや指導者が多く携わっておられたようで、舞台裏での心遣いが行き届きステージが安全かつスムーズに進むよう気配りがされていた様子が伺える。
- ・来場者の多くはポスターやチラシの案内より口コミで来られている方が多いようなので口コミの重要性を感じた。  
シェイクスピアの作品は台詞劇であるが、それをダンスで表現しようという試みは評価できる。集団での演技は全く乱れなく揃っていて見ごたえがあった。かなり練習したことが伺える。
- ・今回の公演は幅広い年齢層の参加者と集客、クオリティーの高い作品とあってよい事業になったように感じる。

#### 【課題】

- ・対価の事を考えるのであれば、例えばパンフレットに協賛企業の広告を掲載するのも手ではないだろうか  
いづれにしろ良い作品をてがけることには資金がかかるのでこのような心配は少なく済ませたいものである。
- ・会場30分前にはかなりの人数の観客が会場の外で行列を作っていた。状況を見て少し早めに入場を開始しても良かったのではないだろうか。
- ・客席によっては端から7席目位まではステージ上の黒い幕が妨げになり、演じている端の出演者やスライドの文字が客席からは見えていなかった。2,000人ホールなので入場者目標が1,000人というのであれば見えにくい席には利用不可の案内を客席に記しておくなど事前にチェックをしておく必要があったのではないだろうか。観客の目線でリハーサルも必要であると感じた。

#### 【その他事業に関する意見、感想など】

- ・公演に携われた方々の十分な準備と人選された担当者、スタッフなどにより、この公演は結果成功と思われる。今回の公演はイベント事は演技者だけではなく多くの裏方で成り立つことを特に感じさせるものであった。今回のとりアートの取り組みは西部では高評価であったと思う。逆に東部、中部ではどうであっただろうか。開催される地域に左右されることは仕方がないが今後も印象に残るとりアートを期待したい。
- ・料金設定は、このレベルでの公演であれば決して高いと感じられない。あまり安い料金設定は、レベルの高い出演者に対し少々失礼にならないだろうか。本当に観たい者は、高くても交通費を使ってでも中央へでも出かけるものである。
- ・来場者アンケートにあったように、子どもには「マクベス」はかなり難しすぎると感じた。2部構成にして子ども向けの分かり易い演目を演じたり、本公演でなくゲネプロを鑑賞してもらおうなどの方法もあってよかったと感じる公演であった。
- ・県内の文化芸術の裾野の拡大について、小さい子どもには少し退屈な場面もあったが、子どもの頃からこのようなレベルの高いダンス公演を見ることにより、ダンスへの興味を持つ良い機会になると思う。
- ・原作の「マクベス」と今回の「磨磨部主」が多くの点で異なるようなので、本物との違いを字幕やパンフレットでの説明が必要だったのではないだろうか。大人でもパンフレットを熟読してからでないとも内容を理解するのは難しかったのではないだろうか。
- ・人材育成については、当初県外にアドバイザーを依頼したものの実現しなかった実状もあるが、せつかくの機会なので、中央からの指導者にも見ていただき、作品の感想や反応を聞かせていただけたら、今後の更なるレベルアップにつながるのではないかと思う。



第8回とっとり伝統芸能まつり(鳥取県地域振興部文化政策課)

平成29年6月18日(日) とりぎん文化会館

文化芸術事業評価シート (県・県文連事業 (舞台系))

評価指標 (=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
伝承と再発見	地域の伝統芸能の継承	伝統芸能活動団体の意欲向上につなげるため、功労団体の表彰を行うとともに、県内伝統芸能活動団体の発表の場を設ける。	<b>達成</b> <b>【成果】</b> 表彰は、江戸時代から瀬戸神社の奉納行事として行われてきた、「榊の舞・三方の舞・剣の舞」の3つに修祓の舞・悪食の舞を加えたスタイルを成立させた、「瀬戸獅子舞保存会」が受賞。表彰の場を設け、演目を披露することで、活動者達の伝承への意欲をさらに高めることができた。また、このステージには、今回新たに子ども達が公演に加わり、次世代への継承にもつながっていくものとなった。	<b>達成</b> <b>【成果】</b> 功労者団体の表彰は、意欲向上につながる。昨年度表彰の「逢東踊り保存会」に続き、今年の功労団体「瀬戸獅子舞保存会」は、独特の趣のある舞で、舞そのものに言葉はなくても観衆に語りかける力を十分持った伝統芸能であった。明治時代や戦後、衰退しそうになる中で続いたこの伝統芸能が表彰されたことに深い意味を感じる。
		地域の歴史や伝統文化を取り上げ、各保存会が継承および発展に向けて続けている各通年行事と新たに試みようとする事業を促進するきっかけとする。	<b>達成</b> <b>【成果】</b> 伝統芸能祭り出演に当たり、全ての県内出演団体にそれぞれの目的・モチベーションをもって参加いただいた。大山開山1300年で地域をあげて盛り上がる大山町から大山僧兵太鼓、2017年に開湯1300年となる関金町から関金田植唄おどりが出演。麒麟獅子の大人と子どもの共演は350年の歴史の中で初の試みであり、それぞれ引き続き活動を精力的に推進していくものと思われる。また、海外・県外と共演することで、その地域での芸能の在り方を認識する機会となった。	<b>達成</b> <b>【成果】</b> 鳥取県内に、これだけ躍動的な保存会が多く存在し、頑張っていることは素晴らしい。一つ一つの演目に物語があり、意味があり、歴史を感じることができた。大山僧兵太鼓の力強さは観客を引きこみ、関金田植唄おどりは、冒頭にホタルの演出を盛り込むなど工夫があって作品の質も高く、団体の意識の高さを感じた。また麒麟獅子の大人と子どもの共演が実現したのも、この事業ならではの成果といえるだろう。韓国の舞や演奏は、県内伝統芸能の中に他国の雰囲気が入ったことで「まつり」としての深みが加わって良かった。阿波踊りも観客との一体感が、盛り上がるきっかけになった。
	歴史に埋もれた文化芸術の再発見	ホームページ上で表彰・出演団体の活動状況を紹介するなど、県内伝統芸能の情報発信に努める。	<b>達成</b> <b>【成果】</b> ホームページを見ての来場が昨年以上であった。今年度から実績動画もリンクさせ、より魅力発信とまつりの雰囲気を伝えることが出来るようにした。アンケートによると県外から43人の来場があった。基本的に、県内での告知しか行っていないので、このHPが有効に機能したと思われる。	<b>達成</b> <b>【成果】</b> ホームページは大変見やすく作られており、広報にも効果的である。
		参加伝統芸能と地域のつながりを紹介して、その場所に行ってみたいと思える演出を行う。内容の評価や効果の確認/当日の観客アンケートなどによって調査。	<b>達成</b> <b>【成果】</b> 特に演技前の地域紹介映像は好評で、オープニング映像・司会のコメント・HP・写真パネルによる団体及び地域の紹介を行った。アンケートにおいても「その地域に行ってみたい」などの意見をいただいた。	<b>達成</b> <b>【成果】</b> 各団体の上演の前、まずスクリーンに写し出された映像により、観客の興味が舞台に注がれたのが良かった。司会者も、昨年のような地名の読み間違いがなく自然なトークで舞台の流れがとても良かったため、各地域の特色がよく分かった。

		<p>地域伝統芸能の舞台を通じて、出演者、鑑賞者が地域の魅力を再発見するきっかけとする。 /当日の観客アンケートなどによって調査</p>	<p><b>達成</b> 【成果】 アンケートで複数、「鳥取県に住んでいながら知らない素晴らしい芸能があることを知りました」など、新たに地元鳥取県の魅力を知ることにつながった。</p>	<p><b>達成</b> 【成果】 鳥取県の伝統芸能は、この事業でさらに発展していくに違いない。観客の満足度は高く、地域の魅力の再発見につながるきっかけとなったと思う。長時間の公演ながら途中で帰る人もほとんどなく見入っていた。また、長時間とは思えない迫力があつた。伝統芸能には継承していく難しさはあろうが、こういう事業を通じてより深いものにしていただき、多くの人々に鑑賞してもらいたい。</p>
<p>鳥取の文化アイデンティティの確立</p>	<p>鳥取県の地域に伝わる伝統芸能を多くの方々知って興味を持っていただく。より多くの来場者につなげ、伝統芸能ファンを広げる 目標来場者数 1700人</p>	<p><b>概ね達成</b> 【成果】 昨年度よりも広報を充実し(※1)目標来場者数 1700人を目指したが目標には届かなかった(※2)。しかしながら、1521人が来場したことはおおむね評価できると思う。開場前は400人待ちの状態となっており、この催しの認知度と伝統芸能の人気の高まりが感じられた。 (※1) チラシの13,000部増刷、ぴよんぴよんネットでの放送、地域創造レター(一般社団法人地域創造発行誌)など、昨年度と比べて広報を拡大 (※2) 平成28年度来場者 1,597人、平成29年度来場者 1,521人 【課題】 目標を達成するために、より効果的な広報に努める。</p>	<p><b>概ね達成</b> 【成果】 1500人以上の観客があり、その満足度も99%と高かった。伝統芸能への理解も広がったと考えられる。事業を知った媒体としてポスター・チラシ261人がトップで、新聞・ミニコミ誌がそれに続いている。チラシは増刷の成果であろうか。広報については、あれもこれもと手を広げるのも悪くはないのだが、成果実績のあるこの2点に特に力を入れて伸ばしていくことが集客増につながると思う。 【課題】 今年度の来場者は1521人(東部)で、昨年度の1597人(中部)に比べると、76人少ない。量的成果としては目標に掲げた1700人に及ばず、昨年実績も下回った。「概ね達成」としたが目標としては「一部達成」に近い。昨年は人口の少ない中部地区の開催で今年度を越える来場者を達成したが、これは同日に開催された周辺イベントとの相乗効果もあるのではないかと。新規の来場者獲得のためには、そのような他イベントとの連携も検討してはどうか。</p>	<p><b>達成</b> 【成果】 他団体の舞台を鑑賞することは刺激につながる。 特に徳島県の阿波踊りの一糸乱れぬそろった動きなどのクオリティの高さは見本になったであろう。各団体が、単にやることだけで満足せず「他人に見てもらうものである、見ていただく人を楽しませるものである」という意識の向上につながるきっかけになったのではないかと。</p>
	<p>舞台参加・他芸能との鑑賞・交流によって、出演者のモチベーションを上げてもらい、価値ある文化を継承しているという、多くの人たちが同じ意識を持って行動できるようなきっかけとする。</p>	<p><b>達成</b> 【成果】 多くの出演者は別演目の時には、観客として観覧しており、大いに刺激を受けていたようだった。特に前日に設けた交流会に参加した出演者は、他地域からの出演者と交流し、その芸能を見て「いろいろと学ばせていただいた」と感想を述べていた。本番公演も、より気持ちが入っていた様子だった。</p>	<p><b>達成</b> 【成果】 他団体の舞台を鑑賞することは刺激につながる。 特に徳島県の阿波踊りの一糸乱れぬそろった動きなどのクオリティの高さは見本になったであろう。各団体が、単にやることだけで満足せず「他人に見てもらうものである、見ていただく人を楽しませるものである」という意識の向上につながるきっかけになったのではないかと。</p>	<p><b>達成</b> 【成果】 他団体の舞台を鑑賞することは刺激につながる。 特に徳島県の阿波踊りの一糸乱れぬそろった動きなどのクオリティの高さは見本になったであろう。各団体が、単にやることだけで満足せず「他人に見てもらうものである、見ていただく人を楽しませるものである」という意識の向上につながるきっかけになったのではないかと。</p>

<p>創造</p>	<p>質の高い文化芸術活動</p>	<p>演目をコンパクトにまとめ、ハイライトシーンを中心とする質の高い内容とするよう努める。 目標：来場者アンケートより演目の質が高いと50%以上が回答</p>	<p><b>概ね達成</b> 【成果】 全ての演目においてコンパクトにしたことと工夫した演出により、質の高い公演となった。 出演者・来場者から、(聞ける範囲では全て)好評価をいただいた。 アンケートにおいては「演奏・演技の質」が良いが42% 「演目演出」が良いが38%であった。 目標数値には届かなかったが、2項目と脚本・公演の長さは近い質問でもあるので合わせると562人が好評でパーセンテージも目標値になると思われる。 【課題】 「演奏・演技の質」については、芸能の質の高い団体を選定していく。 「演目、演出」については、より良い工夫をして鑑賞者に満足いただけるステージとすることが必要。</p>	<p><b>概ね達成</b> 【成果】 伝統芸能功労団体知事表彰と出演8団体の演目を、長時間に渡り時間配分するのは、大変なことであるが、スクリーンでの地元紹介など、さまざまな角度から各団体をサポート出来ていた。迫力ある演技が多く、長時間経ったとは思えないほど見入ってしまう内容だった。幕間のちんどん屋とひよっとこらの盛り上げの演出は、観客を飽きさせない取り組みであった。海外および県外の作品の質の高さも満足度を大きく持ち上げている一因であろう。このような質の高い県外や海外の伝統芸能が鑑賞できるのは、本事業ならではのである。 【課題】 鑑賞者としては質の高い演目が望ましいのだが、本事業の取り組みとしては選定時点で質を評価してしまうことには危機感がある。選定されることにより、より高い質へ向上する可能性もあるし、質の低い伝統芸能は大舞台での発表の場を与えられなくてもよいのかという疑問も生じる。それらに配慮した慎重な選定が求められる。質の高いものを選んで出演してもらおうというよりも、全体的な質の底上げこそが必要であろう。 阿波踊りの質の高さと鑑賞者参加型のミニ体験など「見ている人を楽しませようとする姿勢」を、県内の各団体にも見習ってもらい、質の向上につながることを期待する。</p>
<p>拡大</p>	<p>県民の文化活動支援</p>	<p>伝統芸能の地元の自治体との連動。 この度は、鳥取市・琴浦町・倉吉市・日南町の伝統芸能担当課および、観光課と共同して、伝統芸能とその地域のPR映像を作成・上映</p>	<p><b>達成</b> 【成果】 自分たちの地域の宝である伝統芸能と文化を改めて認識していただくことを目的として、オープニングのPR映像の制作をした。あえて、その映像の素材の提供を地元自治体にお願ひし、共同して作り込むこととして、今回は昨年以上に地元自治体が協力的で「地元の宝である伝統芸能」をより活性化させたいという意識が表れたのではないと思われる。</p>	<p><b>達成</b> 【成果】 映像の素材の提供が地元自治体のものだという事は、当日公演の時にも紹介され、制作する上で、内容をより深めた地元のPRとそれによって、伝統芸能が継承されている活動の様子が観客によく分かって良かった。地元自治体の中から湧き上がってくる思いが、観客にもよく伝わったのではない。 特に北栄町の紹介映像は、町の魅力を十分に伝えるもので思いがこもっていた。なお、その後に検証したところ、同町の映像は町企画財政課・広報担当が手持ちの素材を使って、この事業のために製作したものだった。全ての自治体では無理だろうが、このようなオリジナリティーのある紹介映像が増えると良いだろう。</p>

	<p>県外・海外の優れた芸能と県内芸能とが交流することで、継承や・技術の向上などや留意点の改善につなげていく。</p> <p>交流会参加者数 昨年 50 名 今年 60 名目標</p>	<p><b>達成</b></p> <p>【成果】</p> <p>今回は前日に交流会を実施。参加者は、瀬戸獅子舞・立川町3丁目こども獅子舞・阿波踊り・韓国の4団体と司会者、チンドン屋など65名が参加。大変盛り上がり各団体良いコミュニケーションが出来、いろいろとつながりができた。県内団体は「いろいろと教えてもらった」などと大変喜んでいました。</p>	<p><b>達成</b></p> <p>【成果】</p> <p>交流会でいろいろな意見交換がされることで、今後の活動の参考や演目の質の向上につながる。参加した団体にはおおいに刺激になったであろう。</p>
県民への鑑賞機会の拡大	<p>魅力ある、県外・海外各1団体の芸能団体を招聘し、鑑賞機会の拡大と、文化芸術活動の裾野拡大を図る。</p>	<p><b>達成</b></p> <p>【成果】</p> <p>県外・海外からゲスト出演を招くことが集客にもつながり、鑑賞の拡大となった。</p> <p>県内団体もその演技に刺激を受けたようで、指導なども受けていた。これをきっかけに更なるレベルアップが期待できる。</p>	<p><b>達成</b></p> <p>【成果】</p> <p>文化芸術の裾野拡大を図る上で、県外、国外の優れた団体を招き、魅力のある公演になった。県内にいながら、海外や県外の質の高い伝統芸能の鑑賞機会を提供しており、素晴らしい取り組みである。県内団体も刺激を受けることで、質の向上に繋がりがり、伝統芸能がさらに多くの地区によって栄えていくことが可能になっていくので、大きな繋がりを大切にしたい。</p>
	<p>広く県民への周知を図るため、様々な媒体を活用した広報を実施し、効果的な広報に努める。</p> <p>・チラシ・ポスター・プログラム・折り込みチラシ・チンドン屋・ラジオCM・ラジオ生放送出演・テレビCM(2社)・ホームページ展開(伝統芸能まつり、アーカイブス)</p>	<p><b>概ね達成</b></p> <p>【成果】</p> <p>当初予定の広報に加えて、ラジオ番組出演や、昨年度には無かったメディアへの広報や追加のチラシ配布によって例年以上に広報は実施した。集客としては昨年並みであったが、情報はかなり広がっていたようだ。</p> <p>【課題】</p> <p>今回以上に、より効果的な広報に努める。</p>	<p><b>概ね達成</b></p> <p>【成果】</p> <p>ラジオなどは聞いている人が結構いるので良かった。追加のチラシ配布、新聞のチラシはさみなど、県民の目に触れるようになり頑張っていたことが、効果を上げたのではないかと。</p> <p>【課題】</p> <p>幅広い年齢層へのPRは難しいと思うが、伝統芸能の取り組みを行っている小中学校や子供会など、ピンポイントに呼びかけることで拡大できると考える。</p> <p>県知事の発信力も強く、鳥取県の伝統芸能はポテンシャルとしてはまだまだ広報できると期待している。</p>
	<p>ボランティアやちんどん屋で街頭PRを行い、広報の拡充はもとより舞台の外での演出により気運を高めていく。予定では前日・当日。</p>	<p><b>達成</b></p> <p>【成果】</p> <p>街頭宣伝によって集客複数もあり。ただし、人通りが少なく大勢に配布できず。</p> <p>前日と開始直前のチンドン屋と笛の音などによるPRとアトラクションによって「伝統芸能まつり始まる」という印象と、日常ではない、非日常(ハレ)の機運を高めることに成功。来場者からも多くの好評をいただいた。</p>	<p><b>達成</b></p> <p>【成果】</p> <p>当日、朝から実地検証させていただいたが、チンドン屋のPRは良かった。駅前、若桜街道から会館まで人通りが少なく、その点は残念であったが、会館の玄関で開演前までPRは続き、お客さんもそれにつられて入るなど、舞台外での演出が客寄せに効果を上げていた。</p> <p>また、公演での盛り上げにも大きな役割を果たしていた。</p>

育 成	人 材 育 成 (指 導 者、後 継 者 等)	<p>若い世代に出演参加をしていただき、モチベーションアップ・技術向上を狙う。出演している青少年の人数と青少年がメンバーとなっている参加団体数の増加。</p>	<p><b>達成</b> 【成果】 立川町三丁目子ども獅子舞は、350年続いた麒麟獅子の歴史の中で初めての大人と子どもの共演に取り組んだ。今回は子どもだけの団体が出演したが、これほどの大きな舞台は初めてで、かなり緊張をしていたが、終わった後の達成感を味わっていた。 当然、モチベーションアップにもつながり継承はもちろんのこと技術向上と広がりにもつながると思われる。 瀬戸獅子舞も急遽子どもを加えた編成としており、この祭りをきっかけに、継承への取組が進んだ。</p>	<p><b>達成</b> 【成果】 この大きな伝統まつりの中で、子ども獅子舞が出演したことは本当に意義があった。既にここまで小学生が演じることが出来るようになっていて驚かされた。 子ども達の達成感は、生涯大切な体験になったであろう。 次世代への継承と育成の取組がこの先、さらに増えていって欲しい。 また大山僧兵太鼓は、県外からの移住者も参加されていると聞いている。出演者のコメントでは継承者がなかなかという声も多く聞かれたが、各団体が、他団体の成功している取組みを参考にして活性化してほしい。</p>
		<p>若い世代に「まつり」の進行・運営に関わっていただき、興味を持ってもらい、後継者やサポーター育成に繋げていく。高校生ボランティアにイベント運営に携わってもらう。ボランティアの人数と参加高校数 昨年、6校/80名 今年は倉吉ということと、期末テストとかぶっているため、3校/20名程度を目標とする。</p>	<p><b>概ね達成</b> 【課題】 今回は、各高校の試験と重なってしまったが、かなり少なくなったことが残念であった。 【成果】 ただ、その中でも個人として参加した高校生や、鳥取県西部の学校からも参加があった。 学校の予定と合うかどうかの問題であるが、こうした催しに参加したいという意識を持っている学校・学生もいるようである。 【課題】 高校生が集団で来場していた。引率の先生もいたが、ボランティアの情報は知っておらず「知っていたら参加したかった」という声があった。  参加校 鳥取城北・鳥取敬愛・米子高専 / 16人</p>	<p><b>概ね達成</b> 【成果】 各高校の試験と重なる中で、高校生のボランティアが複数校あったのは、事業側の努力の成果である。学校の都合もあるので、その年々で思うようにはいかないかもしれないが、根気よく続けて、告知を働きかけていって欲しい。 個人として参加希望する生徒があったのは大変良かったことで、教員にも情報をもっと流すことで、協力してもらえると心強い。 【課題】 試験日程との兼ね合いはどうしようもないことだが、ボランティアの情報を知らなかった学校(先生)があったというのは大きな課題であり、まだまだPRの余地がある。 また、高校生だけでなく、大学、短大などに幅を広げてみるのも一案ではないか。高校よりサークル活動のジャンルが多いので、関心を持つ学生もいるかもしれない。</p>
		<p>若い世代に広く伝統芸能を鑑賞いただき、興味をもってもらうような工夫を行う。 PR先を学校やショッピングモールなどの、若い世代が交流しているところにも発信する。 ボランティア参加している学校で生徒に告知。 ショッピングモールイベントにおいて告知。</p>	<p><b>達成</b> 【成果】 ホームページやYouTubeなどにアップして若い世代にも簡単に認識してもらうように実施。その他、外国クルーズ客船の歓迎イベント、企業イベントやイオンモールなどにおいて、積極的に多数の伝統芸能を公演。大勢の若い方々や海外の方々に観覧していただき、大いに楽しんでいただき、「とっとり伝統芸能まつり」をPRした。</p>	<p><b>達成</b> 【達成】 若い世代をターゲットにした広報活動に積極的に取り組んでおり、「興味を持ってもらうための工夫を行う」という、掲げた目標は達成している。 PRにもかかわらず、実際に若い世代の鑑賞者が少ないのは事実であるが、これは事業の性格上、容易なことではない面もある。あきらめずに継続して若い世代への広報に取り組む、さらなる集客につなげてほしい。将来に向けた種まきも必要である。</p>

	<p>子どもたちへの鑑賞の機会提供</p>	<p>子どもたちに参加してもらうことで、伝統芸能への興味喚起を図る。 参加人数と団体数 昨年 12名 1団体 今年目標 31名 3団体</p>	<p><b>一部達成</b> 【課題】 まだまだ来場者は高齢の方が多く、子どもたちの来場は少ない状況である。 【成果】 ただ、昨年より20代未満が増えている。</p>	<p><b>一部達成</b> 【課題】 子どもたちの来場は少なかったが、親子連れで来ている観客もあり、微笑ましかった。 せっかく子どもの団体の出演もあるので、その地域の小学校でそろって観に来てもらえれば良いのだが校長の理解次第で難しい面もある。20～30歳代の世代よりも子どもの方が素直に鑑賞に興味を示してもらいやすいのでさらなるPRを望む。アンケート回収率は全体の傾向を示す35%を超えており、これに従えば20歳以下の来場者率は7%程度。20%とはいわないがせめて10%にしてほしい。</p>
<p>総括</p>			<p>88.2%</p>	<p>88.2%</p>

**【成果】**

- ・司会のテンポの良さと映像による紹介で、地域に伝わる伝統芸能の様子がよく分かった。
- ・アンケート回収率が目標に一步及ばなかったのは残念だが、昨年の36.4%を上回っている。また、以上の回収率があれば観客全体の意見、傾向が把握できるのでその点では十分な回収率ともいえる。
- ・満足度の目標は高く設定されたが、これをクリアされたのは見事である。
- ・開場前の入場待ち客への対応は秀逸で来場者目線の配慮が行き届いていた。アンケートにも係員の対応の良さを述べる声が多い。昼前にはかなり、ロビーにお客の数も増えていて、人気の高さが伺えた。朝から待っているというお婆さんにも話を聞いたが、とてもこの日を心待ちにしておられたようである。
- ・総合的には海外や県外団体の質の高さ、子ども団体の参加など、運営面も含めて良い事業であった。

**【課題】**

- ・入場者数が目標に達しておらず、実績との間に差がありすぎる。入場者数の増に努めてほしい。
- ・昨年も指摘した通り、県外、海外の団体は、極めて質の高いところを招聘しているため当然なのだが、県内団体との質の差が大きい。後継者不足で稽古もままならない団体もあるだろうが、質の高さによる感動が、「自分もやってみたい」という意欲につながるのではないか。
- ・今回の公演の盛り上げには阿波踊りが大きく寄与していた。県外団体の力ではなく県内の伝統芸能団体の力で盛り上げを引っ張っていけるようになればと願う。
- ・アンケートにも声があったが、観客なのか関係者なのか分からないが写真撮影する人が鑑賞の妨げになっていると感じた。関係者なら改善を、観客なら注意をしてほしい。

**【その他事業に関する意見、感想など】**

- ・海外団体の招聘にはかなりの費用がかかっていると思うが、満足度も高く、アンケートの声にもある通り入場料を徴収してもいい内容の事業である。検討してみてもどうか。
- ・昨年指摘した、司会についての課題はクリアされており、聞きやすく好印象であった。
- ・例年、高校生ボランティアの対応の質はあまり高くないのだが、今年度のボランティアはわずか16人で指導が行き届いたためか、高校生ボランティアの対応で気になったことはなかった。
- ・功労団体表彰について、昨年度表彰の「逢束踊り保存会」は大人33人と小中学生12人が伝統芸能の保存継承に力を入れているが、表彰後を検証したところ、この表彰が評価され、同年度に琴浦町推薦で「日本海新聞ふるさと大賞・地域貢献賞」も受賞。児童の一人は「踊りを通して地域の人と関わることの楽しさを感じた。踊りがこれからも長く続くように呼び掛けていきたい。一つ一つの踊りに気持ちを入れて踊りたい」と話すなど、活動意欲が向上している。今年度表彰された「瀬戸獅子舞保存会」も、これに続いてほしい。
- ・情報発信については、HPを作っただけでは意味が無く、そのHPをより多くの人に閲覧してもらう工夫というのが今後必要になるのではないか。
- ・演技前の地域紹介映像について、動画映像が同じフォーマットで作成されていたため変化に乏しい。その中で北栄町の動画はオリジナル性があり、その伝統芸能を育んだ町の魅力が伝わるものであった。多くがこのような内容になれば望ましい。

- ・昨年度は開催日当日に行った参加団体の交流会を、本年度は開催前日にを行うことで参加人数が昨年の51人を上回っているが、県内団体の参加がわずか2団体のみである。県外・海外の質の高い団体と交流できる貴重な機会なので県内団体にはもっと積極的に参加してほしい。来年度以降も、この点で工夫を続けてほしい。なお、交流会は県外・海外の優れた団体と県内活動者の交流および県内団体同士の意見交換や課題の共有などが目的であると思われるので、司会者や広報のチンドン屋の人数は、来年度以降は外してカウントしてほしい。



第61回鳥取県美術展覧会（鳥取県地域振興部文化政策課）

平成29年9月16日(土)～11月27日(月) 鳥取県立博物館ほか

文化芸術事業評価シート（県・県文連事業（展示系））

評価指標（＝取組目標）			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
伝承と再発見	歴史に埋もれた文化芸術の再発見	版画部門の版種をキャプションに明示することで様々な技法の存在や魅力を広めます。	<b>概ね達成</b> <b>【成果】</b> 版種をキャプションに明示することで様々な技法の存在や魅力を観覧者に提供することができた。アンケートの自由記述欄にも版種がわかって良いとの回答があった。 <b>【課題】</b> 表示の文字サイズが小さいとの感想もあったため、キャプションのレイアウト等を検討したい。	<b>一部達成</b> <b>【成果】</b> 版種をキャプションに明示することで、様々な技法のあることを理解してもらい魅力が伝えられた。 <b>【課題】</b> 鳥取会場では、キャプション表示がなかった。また、キャプションの文字サイズやレイアウト、さらには版種ごとの技法の説明などにより、版画の魅力を一層高めてもらう工夫を願いたい。
		書道部門において、卷子・帖も出展可能とし、より幅広く書道作品の魅力を広めます。	<b>達成</b> <b>【成果】</b> 昨年度からの取組であるが、昨年度より卷子・帖の作品数が増加した。帖の作品が奨励賞を受賞するなど、高いレベルの作品も出展されている。また、アンケートに卷子、帖の作品に満足しているとの記述もあった。今後より浸透していくことで、出品数が増えることも見込まれ、書道作品の魅力を広めることにつながる。	<b>達成</b> <b>【成果】</b> 主流の漢詩文作品に卷子や帖作品が加わって、作品表現が広がったことにより、書道部門の魅力が深まった。卷子や帖作品の出展数が昨年より増加したことで、その取組が全体的に減少傾向のある出品数の歯止めにより一定の効果があると思われる。
創造	質の高い文化芸術活動	審査の透明性を確保し、優秀作品に県展賞・奨励賞を授与します。	<b>概ね達成</b> <b>【成果】</b> 開催要項により見学希望者を募り、審査を公開した（見学者数：20名）。また、出品者への審査結果の通知、運営委員の審査への立会など、審査の透明化に努め、公正な審査のもと優秀作品に県展賞・奨励賞を授与した。 <b>【課題】</b> 部門によって、審査の見学者数に偏りがあること、また、アンケートで公開のPR不足との意見もあったため、広報の方法を検討したい。	<b>概ね達成</b> <b>【成果】</b> 審査を一般に公開し透明性の確保に取り組んでいる。 <b>【課題】</b> アンケート結果では審査を公開していることを「知らない」とするものが58.3%に上っている。見学者は少なく、さらなる透明性確保のためにも広報に努められたい。
		作品陳列を審査員に依頼することで展示方法に統一性、芸術性を持たせ、展覧会としての魅力を向上させます。 <b>【目標数値】</b> アンケートでの「特に満足したもの」として展示方法選択率25%以上	<b>概ね達成</b> <b>【成果】</b> 作品陳列を審査員・運営委員に依頼した。アンケートの「特に満足したもの」として展示方法選択率は23.2%にとどまったが、「その他」の自由記述には、展示方法に満足した等の内容もあった。 <b>【課題】</b> 年々、展示作品が大型化していることもあり、陳列にあたる審査員から陳列が難しいとの声がある。展示点数等について検討したい。	<b>概ね達成</b> <b>【成果】</b> アンケートにおいて、「特に満足したもの」としての展示方法選択率は目標数値の25%に僅かに及ばなかったものの、概ね達成したと評価できる。 <b>【課題】</b> 「工夫した方が良い点」として展示方法を挙げたものが多く、その理由として「審査講評、作者のプロフィール」を、次いで「ゆとりある展示」を挙げている。魅力ある展示に向けて取り組まれたい。

		<p>展示会の伝統を守り、来場者の満足度を維持・向上させます。</p> <p>【目標数値】 アンケート問①で「とても満足」「満足」の合計回答率93%以上（第60回：93.4%）</p>	<p><b>達成</b></p> <p>【成果】 アンケート問①で「とても満足」「満足」の回答率は96%であった。各会場とも95%を超えており、目標値を達成した。</p>	<p><b>達成</b></p> <p>【成果】 各会場ともに目標数値を達成した。また、「不満」「とても不満」とするものも昨年の4.7%から2.3%へと減少して評価できる。</p>
県民の 参画支 援		<p>会期中の全ての来場者に対して、受付でアンケートの協力をお願いすることで回収率を向上し、県展の運営に県民の意見を積極的に取り入れます。</p> <p>【目標数値】 アンケート回収率20%（第60回13.69%）</p>	<p><b>未達成</b></p> <p>【成果】 アンケート回収率は16.9%であり、前回よりは向上したが、目標値には達しなかった。</p> <p>【課題】 会場によって回収率に大きな差がある理由を分析して、回収率向上の対策を検討したい。</p> <p>【会場別回収率】 鳥取：20.8% 米子：10.5% 日南：11.7% 倉吉：25.7%</p>	<p><b>一部達成</b></p> <p>【成果】 入場者の声を県展の運営改善につなげるためにもアンケートについて一定の回収率の確保は必要である。今年度は、全体として目標数値には届かなかったが、鳥取及び倉吉会場は目標を上回った。</p> <p>【課題】 会場によってはアンケート記入への協力の声掛けがなかったとの実地検証委員の検証結果もあり、目標を下回った会場について原因究明を行い対応願いたい。</p>
		<p>県展をより身近に感じていただくため、キャッチフレーズを設け、チラシ・ポスター・開催要項に明示することで県民の参加を促します。</p> <p>【目標数値】 出品数 650点（第60回 629点）</p>	<p><b>一部達成</b></p> <p>【成果】 チラシ・ポスターのキャッチフレーズ及びデザインを定番化し、一目で「県展」の広報物であることがわかるようにしたが、出品数は618点と目標値に達しなかった。</p> <p>【課題】 出品数の減少が続いている。出品者も固定化の傾向があるため、県内高等学校等へ出品の働きかけを行う等、新たな出品者の掘り起こしを図りたい。</p>	<p><b>一部達成</b></p> <p>【成果】 チラシ・ポスターのキャッチフレーズ及びデザインを定番化し、一目で「県展」の広報物であることがわかるようにしていた。</p> <p>【課題】 出品数は年々減少してきており、出品者の固定傾向があるとの分析で、このままでは今後の県展の衰退が懸念される状況である。県民各層からの参加の促進のためには、現行のキャッチフレーズ云々のみでは困難な状況と判断されることから、現行の取り組みを継続しつつ新たな方策を講ずる必要がある。</p>
拡大	県民の 文化活 動支援	<p>本展以外の巡回展会場においても、ギャラリートークを行うことにより、受賞作品に対する理解を深めます。</p>	<p><b>達成</b></p> <p>【成果】 全ての会場においてギャラリートークを実施した。ポスター・チラシへの掲載及び出品者への搬入時に案内チラシを配布し、参集に努めた。ギャラリートーク当日も、館内放送等により来場者へギャラリートークへの参加を呼びかけた。いずれの会場も約20名の参加があり、審査員との意見交換も活発に行われた。アンケート記述においても、ギャラリートークにより作品の理解が深まった旨の感想があった。</p>	<p><b>達成</b></p> <p>【成果】 各会場においてギャラリートークを実施され、受賞作品等に対する理解は深まったものと思われる。ギャラリートークの内容も分かりやすく、様々な工夫がなされたと評価される。なお、いずれの会場も約20名の参加者で、今後参加者数を増やしていく取組も期待したい。</p>

		書道部門において、作品と一緒に釈文を展示することによって、県民の作品鑑賞を支援します。	<b>達成</b> <b>【成果】</b> 釈文票についてのアンケート評価は「あった方が良い」とする回答が82.1%で、前回よりも減少している。ただし、「必要ない」という回答は1.5%であるため、釈文票の展示には、ある程度の評価を得ていると考える。 <b>【実績値】</b> H28：86.7%⇒H29：82.1%	<b>達成</b> <b>【成果】</b> アンケート結果において、釈文の掲載があった方がよいとするものは、82.1%で、鑑賞者の支持は得られている。 なお、釈文の字が小さくて読めない、漢詩の意味もあればなおよいとの意見もあり、入場者の作品鑑賞の支援の見地からも検討願いたい。
	県民への鑑賞機会の拡大	日本海新聞へ社告・記事・全5段広告などを複数回掲載するとともに、HP、チラシ、ポスター、県政だよりによる充実した広報を行い、より多くの方への周知に努めます。 また、受託業者である日本通運株式会社鳥取支店内部においても県展の魅力をPRすることで、その関係会社等にも関心を深めていただきます。	<b>達成</b> <b>【成果】</b> 新聞等による広報の充実を図り、入場者増に努めた（掲載記事数：21回）。1日あたりの入場者数は過去最高の前回からは減少しているが、来場者数は初めて1万人を突破し、目標としていた9,000人を大きく上回った。 <b>【H28：7,695人(296人/日)→H29：10,099人(229.5人/日)】</b>	<b>達成</b> <b>【成果】</b> 県民への周知の努力が実り、入場者は18年振りに1万人を超え目標を上回った。 1日当たりの入場者数は昨年を下回ったが、「初めてきた」人の割合は僅かではあるが昨年を上回るなど評価できる。
育成	子どもたちへの鑑賞機会の提供	県内高等学校等に向き、芸術担当教員を通じ、鑑賞を推奨いただくことで若年層の取り込みを図ります。 <b>【目標数値】</b> 40代以下の鑑賞者25%（第60回23.5%）	<b>一部達成</b> <b>【成果】</b> 県内高等学校等に向いてPRを行った結果、部活動の一環で鑑賞した学校もあった。小学生の作品や高校生の合同制作作品が入選し、新聞に取り上げられるなど、若年層が鑑賞するきっかけとなり得る話題もあったが、回収したアンケートによる40代以下鑑賞者の割合は19.9%であり、目標値には達しなかった。 <b>【課題】</b> 高校生以下の来場者は、回収アンケートによると約4%であったが、受付（鳥取・米子会場）の計測では約7%であった。いずれにしても低い割合であるため、学校関係へのPRをさらに強化する等して、若年層の来場につなげたい。 <b>【実績値】</b> 19.9%	<b>一部達成</b> <b>【成果】</b> 高等学校へ向いてのPRを行い、部活動の一環としての鑑賞に結びついている例はある。 <b>【課題】</b> 目標数値の設定の対象を40代以下としているが、目標数値には届かなかった。若年層への取り込みという中項目の目標に照らせば再考の余地があると考え。 また、高校生のみならず幅広く若年層に訴える取組も期待したい。
総括			69.7%	69.7%

**【成果】**

- ・入場者数は昨年に引き続き増加し、県展開始以降初めて1万人を超えたことは素晴らしく、高く評価したい。
- ・さらに、アンケート結果による観客満足度も96%と高水準で、定量目標とした93%を上回り「とても満足した」とするものも増加している。
- ・毎年度の積み重ねに加え、今年度は小学生や高校生の入選や1ターン者の受賞などが話題となり魅力ある県展となった。

## 【課題】

- ・一般の応募者による応募点数は年を追って減少してきており、危機感を感じる。応募者の高齢化や固定化がこの背景にあると考えられ、若年層をはじめ新たな応募者増に結び付く取組が必要である。
- ・定量目標として掲げたアンケート回収率は16.86%と目標の20%に届かなかった。28年度と同様に米子会場と日南会場の回収率が目標を下回り昨年度の評価書において一部会場での声掛けがなかったことを指摘していたことが改善されていない。
- ・アンケートにおいて、特に工夫した方がよいと思われる点について、「展示方法」を選択した回答が多い。求められているのは、審査講評や技法、出品者のプロフィール、コメントなどであり、入場者は作品鑑賞の際に作品の背景や技法、作者を知ることによって作品をより深く理解したいと望んでいるものと思われる。この実現のためには掲示物が増えるなど大変と思われるが、入選作品だけでも検討を望む。

## 【その他事業に関する意見、感想など】

### 《審査会》

- ・アンケートに受賞理由を明記してほしいという意見があったが、審査中にコメントが発せられたものは結果通知書に明記すればクリニックにもなり、創作意欲も湧き次回への挑戦や作品の質を高めることに繋がるかもしれない。
- ・審査会でできれば点数を挙げたのちに、その作品について「被写体の選択に個性を感じる」とか「主題をもう少し描きこんだ方がいい」というようなコメントを発すれば参加者にも学びの場になると思う。
- ・審査会出席者の多い少ないは、自分の作品が評価を受ける現場に居合わせたい人が少ないためかもしれない。そういったことも含め、応募要項の提出用紙にアンケートを加え、出展者に県展に対する調査をしてみるとよい。
- ・審査方法で、例えばすべて外部にお願いはできないか。

### 《展示会》

- ・平日の特に午後3時以降は実に閑散としている。例えば平日の午後にギャラリートークを行うなど来場者を増やす方法も検討してはどうか。
- ・静かに鑑賞することも大切であろうが、差しさわりのない程度のBGMでも流れていたら気楽に鑑賞できるのではないか。
- ・ジュニア県展の募集期間中に県展が開催されているので、会場で子供向けにギャラリートークしたり、作品作りのワークショップをしたりと来場させるイベントを企画してはどうか。
- ・アンケートの回収について、回答させる仕掛けが必要。例えばギャラリー賞を設けて、お客様に「審査員になった気分」というスパイスを加えてはどうか。また、開幕後に決まる賞があるということで報道材料が一つ増えるメリットもある。
- ・広報活動が大切。年間通じての取組なので早い時期から広報を。
- ・鳥取市文化団体協議会では毎年5枚くらい選んで小学校へ出向き「出前講座」として油絵、書道、写真、日本舞踊、、など小学校高学年に興味あるものを選ばせ、芸術・文化に親しんでもらっている。どの分野でも若い人たちに興味を持ってほしい今、様々な働きかけを考えて行ってほしい。
- ・版画部門で版種記載の取り組みがあったが、洋画や工芸など他の部門にも取組を広げると鑑賞の助けになるのではないか。
- ・人材育成がポイントと思う。
- ・会場に小中高生の姿が少ない。せめて作品解説が鑑賞できればと思う。

第15回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2017中部地区事業(中部地区企画運営委員会)

平成29年11月18日(土)～11月19日(日) 倉吉未来中心

文化芸術事業評価シート (とりアート事業 (総合芸術))

評価指標 (= 取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目(※1)	自己評価	委員会
裾野の 拡大	県内の文化芸術の裾野の拡大	「次世代育成」をテーマに、子どもや若者が参加できる企画を積極的に実施し、親子・家族で楽しめるイベントにします。	<b>達成</b> 【成果】 鑑賞、参加型のイベント、フードコートなど、子どもや若者、親子が気軽に参加できるものが多く企画され、文化芸術に主体的に取り組んでいない人にとっても文化にふれ、関心をもつきっかけとなるイベントとなった。若者(20代前後)の来場は例年に比べ多かったものの、今後もさらに若者の参加を増やしていきたい。	<b>達成</b> 【成果】 中部のとりアートは以前から子どもや若者、親子を対象とした企画が多く、自身も子供と参加したが、ワークショップや展示、ステージ等子供も飽きずにほぼ1日一緒に楽しむことができた。どの地区でのとりアートでも20代の参加者は少なく感じられる。この世代を対象とした企画を増やすことが、全体の参加人数の増加にもつながるものと考えます。
		幅広い文化芸術の企画を実施し、より多くの世代が参加しやすい催しとします。	<b>達成</b> 【成果】 お茶席、着物などの日本文化から、デジタルアートなど最新技術を使った企画まで幅広く実施され、多くの世代が参加しやすい催しとなった。引き続き、地域の文化芸術の活動者にもっと参加を呼び掛けていきたい。	<b>達成</b> 【成果】 小さな子供たち向けの塗り絵から年配の方向けの絵手紙など企画はバラエティに富んでいた。「VR360° 絵画コレクション」では、近年浸透してきているとはいえ、まだそれほど一般的ではない VR を体験することができ、またこの技術をアートと結びつけることで、新しい文化芸術の形を感じることはできたのではないかと。今後は、世代ごとの入場者に対応する満足度の割合など目に見える形で取り組み目標の指標設定を検討したい。
	県民誰もが気軽に文化芸術に触れる機会の提供	誰でも気軽に鑑賞できるオープンスペースでの企画を充実させます。	<b>達成</b> 【成果】 倉吉未来中心のアトリウム特設ステージを中心に、作品展示やワークショップを配置したこと、ステージ上で常時イベントを実施していたこと等、誰でも気軽に鑑賞しやすい環境ができた。	<b>達成</b> 【成果】 メインとなるステージと、ワークショップや作品展示のエリアを同じ空間に配置することで、来場者が自身の関心のある企画を自由に鑑賞できる環境であった。
		周遊企画やフードコート等の実施など、来場者がより長く、より楽しく、より気軽に催しを満喫できるよう工夫します。	<b>概ね達成</b> 【成果】 クイズラリーなどの周遊企画、フードコート、ワークショップなどを随所に配置したことで、来場者は長時間にわたって文化にふれ楽しむことができた。 【課題】 雨天時のフードコートの対策が必要だった。	<b>概ね達成</b> 【成果】 午前からの参加であったが、ワークショップの充実やクイズラリーなどの企画終了近く時間まで楽しむことができた。また長時間楽しむ際にはフードコートの存在は非常にありがたかった。 【課題】 フードコートで購入した食べ物を食べる場所が少なかった。また荒天時の対策も不十分だった
		年齢・性別・障がいの有無を問わず、様々な方が出演・参加・体験できる機会の充実に努めます。	<b>達成</b> 【成果】 障がいのある方の作品展示、ステージ発表、映画上映などを行い、共にイベントを作ることができた。みんなでぬり絵、出前おもしろ実験室など、家族で気軽に、無料で楽しめる企画が開催できた。今後	<b>達成</b> 【成果】 「一心焼展示 & 映画上映」は見ごたえのある内容だったが、場所が少しわかりにくかったように感じた。倉吉にはこういった分野のアートにも力を入れて「無心」というミュージア

			も、このような企画を増やし、文化芸術への間口を広げたい。	ムもあるので、併せてもう少しうまくPR できるとよかったと思う。すでにトライされているのかもしれないが、高齢者施設や障がい者施設などへのパンフレット配布や参加の呼びかけなども検討されてはと感じた。
頂点の伸張	県内の文化芸術の質の向上（事業の質の向上）	プロアーティストやレベルの高い県内アーティストが出演する企画を取り入れることで、中部地区事業の質の向上に繋がります。	<b>概ね達成</b> 【成果】 県内アーティストに留まらず、プロや海外アーティストを迎えることで全体的な質の向上につながった。 【課題】 今回は質の高いステージを提供できたが、これを継続していけるかは今後の課題である。	<b>達成</b> 【成果】 プロのアーティストが参加することによって、来場者に質の高いステージを提供することができ、またアマチュアの参加者とプロのアーティストとの交流を通し、全体のレベルアップにつながったと思われる。
		複数の団体が出演する企画を増やし、演奏や交流を通じて、レベルやスキルの向上を図ります。	<b>概ね達成</b> 【成果】 複数の出演団体によるコラボステージを企画することで、スキル向上や、次のステージに繋がった。また、空き時間にコミュニケーションをとったり、連絡先を交換したりするなどの交流が図られた。 【課題】 今後コラボステージを企画する際は、事前の打ち合わせをさらに綿密に行って臨む必要がある。	<b>概ね達成</b> 【成果】 複数の団体がコラボすることで、単独で行うときは違ったスキルが必要となることは理解できる。このことが、イコールレベルやスキルの向上といえるのかは難しいのかもしれないが、何らかの前進はあったように思う。今後も継続し、さらなる向上を目指して取り組んでいただきたい。 【課題】 事前の打ち合わせをより綿密に行い、今後も継続して更なる向上を目指し取り組んでいただきたい。
	県民ニーズの把握	昨年のアンケート結果、事業評価等を踏まえて、地域や県民のニーズを把握し、より良い事業となるように努めます。	<b>概ね達成</b> 【成果】 運営委員会では、過去のアンケートや事業評価等を踏まえながら、事前に役員会を開催して企画内容を協議し、より良い事業となるよう努力した。 【課題】 企画検討の開始段階で、過去のアンケートや事業評価を運営委員会内で改めて提示することで、企画に活かしていきたい。	<b>概ね達成</b> 【成果】 アンケートの結果を受け、案内ポップの作成等いくつかの点で改善につながったという点で評価できる。 【課題】 すべてのアンケート結果について改善するのは難しいと思うので、アンケート結果のうちから具体的な改善点を挙げ、その成否について評価するという項目設定だとよりわかりやすいのではないかと。
		委員自らが質の高い企画や、プロデュースする企画を提案し、良質な作品を提供します。	<b>達成</b> 【成果】 中部地区では目新しいデジタルアートの企画や、メイン企画「父と暮せば」のように自主制作で完成度の高い企画を提供し、楽しんでいただくことができた。 【課題】 自主制作企画は、規模が大きくなるほど担当委員の負担も大きくなり、全体の運営まで携わることは難しくなる。企画も全体運営も、個人ではなく委員会全体で臨む意識で推進していきたい。	<b>達成</b> 【成果】 デジタルアートの企画は実際に体験し、新鮮で興味深く満足できるものであった。委員提出の企画でメイン事業の「父と暮せば」については、「脚本は古いものではあるが、戦争の愚かさや核による被ばくが、肉体だけでなく、生き残った人の心に与えるものについて改めて考えさせる内容で、北朝鮮の核の恐怖が目前にあり、一方で憲法改正が議論される現在の社会情勢の中で、時節に合うものであった。」との委員からの意見もあり、全体として作品の質も高く、回収率が6割近いアンケートから鑑賞者の満足度の高さも推量できる。このような作品を、とりアートの事業として開催したことは意義深い。

人材育成	活動者 (指導者、 後継者、 担い手) の育成	次代を担う青少年に発表の場の提供や、園児・児童対象の絵画コンクール、ワークショップ企画等を通じて、文化芸術への意欲向上を図ります。	<b>概ね達成</b> 【成果】 絵画コンクールでは過去最高の309点の応募があり、学校や子どもたちにこのコンクールが定着してきているといえる。来場した子どもたちのワークショップへの参加率も高かった。 【課題】 幼児～中学生が出演するステージはいくつか実施したものの、全体的に見るとその数はまだ少なく、今後機会を増やしていきたい。	<b>概ね達成</b> 【成果】 中部のとりアートでは、園児や児童を対象とした絵画コンクールや、合唱フェスティバルなど子供や若者を対象とした企画を継続して行っており、定着してきている点は評価できる。 【課題】 高校生以上の若者に向けた企画を増やすことも必要なのではないか。
		教育機関や学校と連携することで、後継者や担い手の育成を目指します。	<b>一部達成</b> 【成果】 園児・児童の絵画コンクールや、中部青少年合唱フェスティバル、中学校美術部の作品発表(ステップアート)等で連携し、よい結果を残せた。 【課題】 高校生ボランティアが学校試験の関係で依頼できず、イベント運営の育成の機会が少なくなってしまった。	<b>一部達成</b> 【成果】 中部の教育機関と連携し、作品の提出や企画への出演を通し、イベントに対する理解を得ることで、今後も継続して文化芸術活動に参加する環境を形成するための一助となったといえる。 【課題】 学校等との連携は校長会での説明に加え、可能な限り各学校へのアプローチに努めて欲しい。 また、高校生に対してはボランティアの参加としてではなく、作品の提供や企画への出演の機会を提供することも必要なのではないか。
	鑑賞者の育成	誰もが気軽に文化芸術に親しむ機会を提供して、文化人口の底辺拡大を図ります。	<b>概ね達成</b> 【成果】 文化芸術にあまり関心のない人でも親しみやすく、興味につながる企画を多く実施できた。気軽に来場しやすい会場でもあったことも喜ばれた。 【課題】 今後も今年のように気軽さと質の高さのバランスをとりながら、文化人口の底辺拡大を図りたい。	<b>達成</b> 【成果】 とりアートとは別の目的で未来中心を訪れた人でも、気軽に参加できる雰囲気と環境であった。今後は質の高さとのバランスにも期待したい。
		新たな企画を取り入れることで、これまでとりアートに訪れたことない方たちの来場に繋がります。	<b>概ね達成</b> 【成果】 デジタルアートの無料コーナー、外国との文化交流などを企画することができ、例年に比べて、20代前後の観客の来場に繋がった。 【課題】 出演者がマンネリ化してしまわないよう、普段から情報収集を行っていく必要がある。	<b>概ね達成</b> 【成果】 デジタルアートについては実際に体験してみると、確かに20代前後の世代に関心を持たれる企画であろうと思われる。例年参加の少ないこの層に向けた企画を提供した点は評価できる。 【課題】 20代前後の世代をターゲットにした企画であるなら、その世代がこれらの企画を目指して訪れるよう、広報の段階からしっかりとPRしてほしい。
	アートマネージャーの育成	若手のアートマネージャーを配置し、アートマネジメント人材を育成します。また、中部地区企画運営委員が検討事項ごとに担当を持つことで、委員会全体の	<b>一部達成</b> 【成果】 若手アートマネージャーを配置し、若い視点での意見を取り入れることができました。担当制については、みんなでイベントを作ったという実感に繋がった。 【課題】 若手のアートマネージャーについては、人材の発掘や、学業・仕事等で活動に制	<b>概ね達成</b> 【成果】 若手のアートマネージャーとして大学生の参画があったことは、人材育成という観点では大きな成果であると考えます。継続することでさらなるスキルの向上を望む。 【課題】 若手のアートマネージャーについて

	アートマネジメント力の向上を図ります。	約がある中でどのように関わっていただくべきか等、検討が必要である。	は、人材の発掘や、学業・仕事等で活動に制約がある中でどのように関わってもらうか等、検討して欲しい。
支援者の育成	公募企画の出演者への説明会や打ち合わせにおいて、とりアートの趣旨、目的等の共通認識を図るとともに、前日準備や当日の運営も出演者と共に行うことで、とりアート事業の理解者・支援者の拡大を図ります。	<b>概ね達成</b> 【成果】 出演者との打ち合わせを重ね、当日も受付など運営側の業務をお願いしたり、広報も両者で行ったりしたことで、事業に対する理解者、支援者の拡大に繋がった。 【課題】 新規の出演団体を中心に、さらなる意識の共有が必要。	<b>概ね達成</b> 【成果】 出演者との打ち合わせを行い、運営業務の分担等によって、イベント全体を一緒に作り上げていくという意識を共有することができたよう。 【課題】 実施者アンケートの中には十分な打ち合わせができておらず、意思の疎通が図れていなかったり、お客さんのような意識での参加が感じられるコメントもあった。
育成した人材を活用する場の提供	中部地区企画運営委員会が運営・育成している「中部少年少女合唱団 MIRAI」に、様々な発表の場をつくります。	<b>達成</b> 【成果】 継続した活動の中で、年々歌唱力、表現力が向上し、とりアート中部地区事業の参加だけでなく、鳥取県合唱フェスティバル、倉吉天女音楽祭等に出演できた。経験を積むだけでなく、広報面でも一役を担うことができた。今後も参加者、指導者の確保に努めたい。	<b>達成</b> 【成果】 運営委員会が運営、育成する団体が、活動を継続できていること自体が評価できるし、また他のイベントへの出演の機会も増えていることも大きな成果であると考えます。
総括		75%	81.3%

### ○自己評価総括【成果】

- ・年齢、性別、障がいの有無、また文化に長けているかいないかを問わず、誰でも気軽に文化芸術を楽しむことができる企画を開催し、県民が文化芸術に親しみをもち、主体的に取り組む機会になった。
- ・若者によるステージを企画したことで、例年に比べて若い年代の来場が増えた。
- ・県内アーティストだけでなく、プロや県外アーティストによるステージも企画し、全体のレベルが向上してきている。
- ・作業スタッフの人数が確保できていない中、委員による準備、片付けの要領もよくなってきた。委員の協力により無事にイベントをやり遂げることができた。
- ・多くの方に来場していただくことができた。特に東部・西部に比べて文化芸術面でイベント数が少ない中部地区において、住民のニーズに応えることができた。
- ・本年度の入場者数は、両日とも悪天候にもかかわらず目標値を僅かに上回り、達成することが出来た。平成26及び27年度は、フードコートとクイズラリー利用者を含めた定量目標・実績であったが、今年度は、フードコートとクイズラリー利用者を含めない文化芸術に直接関わった延べ人数を定量目標・実績としてカウントした。目標値は、フードコートとクイズラリー利用者約2900人を差し引いた上、年度によってイベント内容に違いがあることを考慮し設定した。入場者数は、ステージイベントや各ブースの参加者を出演者や担当者から報告を受け、積み上げて算出している。

### ○自己評価総括【課題・その他事業に関する意見、感想など】

- ・オープニングの時間を早めて、他の企画と重ならないよう配慮が必要であった。  
企画との兼ね合いもあるが、食事スペース、休憩スペースをもう少し多く確保しておけるとよかった。
- ・フードコートを行う際、雨天時の対応も予め検討しておく必要があった。
- ・参加団体に、もっと準備や片づけの協力を呼びかけ、県民みんなでイベントをつくっていききたい。
- ・今後も引き続き、次世代の人材育成を行っていく必要がある。
- ・奥の部屋での企画案内をもっと目立たせ、来場者を誘導する工夫ができればよかった。
- ・中部の場合、若手の人材が少ないという大きな課題があり実現が難しい面もあるが、今後も育成事業に重点的に取り組み、イベントがより充実したものとなればと思う。
- ・とりアート中部地区事業は、たくさんの方に来ていただけるようになったが、今後は、中身の変化、レベルアップを考えていかななくてはならないと感じる。

### 【成果】

- ・ 絵画コンクールやステップアート、ワークショップ等のこれまでの継続企画等による安定した内容に加え、デジタルアートやハワイアンフラ、フラメンコ、二胡、海外のアーティストの参加など新しい試みも多くみられ、文化芸術のすそ野を広げ、幅広い世代に向けた満足度の高い内容であった。アンケート回収率が5割近い中で満足度 96.5%は素晴らしい。
- ・ メイン事業の「父と暮せば」について、とりアート中部地区事業での演劇公演は2012年以來。公演アンケートの高い回収率 59%と記述内容から満足度の高さが推し量れる。内容も質の高い公演を鑑賞者に提供できていた。
- ・ 幅広い年代の県民が楽しめる内容の企画が多彩にあり、来場者の年代もアンケートによると①20歳代以下の子供・若年層 24%②20～30歳代の青年層 24%③40～50歳代の中壮年層 24%④60歳代以上の高齢者層 26%と、年齢層に偏りがなくバランスがとれていた。これは裾野の拡大につながる成果だろう。

### 【課題】

- ・ オープニングイベントと小ホールなどのイベントが同時刻に開催スタートするというのはいかがなものか。委員会において誰からもこの点について意見が出なかったのか。

### 【その他事業に関する意見、感想など】

- ・ クイズラリーは恒例企画であり、周遊にも良いので続けてほしいが、クイズの配置場所に工夫があればなお良い。小ホールホワイエには、絵画コンクールの作品が奥の曲がった先の行き止まり付近まで展示されていたが、よほど興味がないと来場者はそこまで行かない。そのような奥の場所にクイズポイントを設置すれば途中の展示や企画も目に入り、中には興味を持つ人もいだろう。
- ・ 演劇公演「父と暮せば」の内容は良かったが、夕方からの単独イベントであり、公演後にはアトリウムも片づけられていて寂しく、とりアートの事業を観に来たというよりも、一般開催の演劇公演を観に来たような印象を受けた。全体の片付けの問題などもあるだろうが、来場者にとりアートの事業であるという認識が希薄になってはもったいない。その環境ならアンケートも、とりアートのアンケートと公演アンケートの2種類は書きにくく、公演の方を記載するだろう。これらの結果がとりアートアンケート集計において、特に良かった企画で「父と暮せば」が少なくなった要因ではないか。
- ・ アンケートの中にもありましたがもう少し雰囲気づくりとして会場設営も工夫してはどうでしょうか？
- ・ 中部で行うイベントとしては未来中心がベストであるのかもしれませんが、例えば西部のように様々な会場で行うことも考えてみてはどうでしょうか。メインとして難しいのであればサテライトのような形であっても、より多くの人にとりアートに触れる機会になるものと考えます。



第15回鳥取県総合芸術文化祭・とリアート2017 西部地区事業(西部地区企画運営委員会)

[境港魚市場]平成29年10月8日(日)、[米子市文化ホール]12月2日(土)～12月3日(日)

文化芸術事業評価シート (とリアート事業 (総合芸術))

評価指標(=取組目標)			評価委員による指標	
大項目	中項目	小項目(※1)	自己評価	委員会
裾野の拡大	県内の文化芸術の裾野の拡大	「いつものまちで文化する!～もリアート、まちアート、うみアート、ここでアート～」をコンセプトに、複数年ごとに地域を巡回しながら実施することで、西部地区全体での事業への参加機会を提供する。 本年度は「うみアート」として境港市、「まちアート」として米子市で開催する。※①	<b>概ね達成</b> 【成果】 昨年度に続き、西部地区の様々な地域をめぐるイベントを開催し、広く参加できる機会を創出するコンセプトを継続し、今年の境港会場では、「うみアート」として「境港水産まつり」と連携することで、文化芸術に関心のない方にも気軽に触れるきっかけを提供するイベントとなった。 【課題】 「うみアート」として境港市での初の開催で、来年度以降につながるきっかけとなった一方、米子会場では、普段、文化芸術に関心が薄い一般客の取り込みに結びついていない一面があった。	<b>概ね達成</b> 【成果】 「境港水産まつり」との同時開催は多くの来場者に文化芸術に触れあう機会を提供できた。 【課題】 今後も、会場選びに一考が必要。また、米子会場は、まちアートだから、JR米子駅でのイベントができないものか。米子文化センターではインパクトがなく残念だった。また、ダラズ FM 付近の町家での開催も面白いと思う。
	県民誰もが気軽に文化芸術に触れる機会の提供	開催地区の祭りと共に開催することにより、来場者の層と範囲を広げ、普段文化芸術に関わりの少ない方にも文化芸術に触れるきっかけを作る。※②	<b>概ね達成</b> 【成果】 地域のイベント「境港水産まつり」にて展示・ワークショップ等を実施し、多くの方に文化芸術に気軽に触れる機会を提供できた。 【課題】 親子連れの来場が多かった一方、若年層(中学生・高校生)の来場が少なかった。「うみアート」から「まちアート」への連動が不十分で、境港会場の集客が、米子会場への集客につながらなかった。	<b>概ね達成</b> 【成果】 「境港水産まつり」との同時開催は多くの人にとリアートを知ってもらい、参加してもらい機会となった。 【課題】 水産まつりは県外の方が多く、米子会場への集客には結びつかなかった。米子会場は米子市文化ホールであったが、地域のイベントとは共催しておらず、ビッグシップで有名な歌手が来ており、そちらに人出をとられた感があった。
頂点の伸張	県内の文化芸術の質の向上(事業の質の向上)	各地域での連続複数年の実施により地域の特徴を事業に取り入れる。地域ごとに特色を持った事業を企画し開催することで、新しい作品や企画を地域に提供する。	<b>概ね達成</b> 【成果】 「うみ」、「まち」のコンセプトと企画・展示等がマッチし、境港会場では地域の特色を生かした展示・ワークショップが行われ、また地元小・中学生による作品制作など、交流する機会となった。 【課題】 境港会場では初年度ということで、地元の方やイベント内容との関わりが少なかった。米子会場は、地域の特色を十分に感じられない内容となり、更なる企画の検討が必要である。	<b>概ね達成</b> 【成果】 「うみアート」をテーマとした境港会場では、魚の絵をかき、切り取り、吊るして楽しむワークショップや会場で撮影会をし、撮影した写真をトロボ箱で作成したスクリーンに投影したり、トロボ箱の底にアーティストの写真作品を張り付け、水を張り展示するなど、奇想天外なアート作品を楽しむことができた。 【課題】 水産まつりの内容は、食の祭典。無料で提供されるカニ汁を家族で楽しむ。魚介類を買い求める。イベントの内容と、アートは相関関係が乏しく、再考を期待したい。 米子会場は、米子市文化ホールで実施されたが、米子の特徴が出ていなかった。

	地域間の文化に触れる機会を蓄積し、相互の文化を感じ、共有する環境を提供する。	<b>概ね達成</b> <b>【成果】</b> 東・中・西部各地域の郷土芸能の披露は、普段触れることの出来ない文化に触れる機会となった。昨年度実施の日野町より出演団体招聘、境港会場の作品を米子会場への取り入れ、各地域間の交流の企画を創出した。 <b>【課題】</b> それぞれ単発での実施になり、交流企画をまとめて周知する取り組みが足りなかった。	<b>概ね達成</b> <b>【成果】</b> 郷土芸能の披露は、地域間の文化に触れる機会の提供であり、成果があった。山の文化を海にもっていき披露し、海の文化を町にもっていき披露した。これらの交流企画はよかった。 <b>【課題】</b> 境港会場では米子の文化に触れることはなかった。会場を、山、海、町と、2年実施したら、次に移る交流企画を提案したい。
県民ニーズの把握	※①及び※②を実施することで、アンケートなどをとおしてニーズの掘り起しを行う。	<b>一部達成</b> <b>【成果】</b> 各会場でアンケートを実施し、どのようにとりアートを感じていただいたか、どのような要望があるかを収集した。 <b>【課題】</b> アンケートだけでは県民ニーズの掘り起しは不十分のため、今後もニーズの把握を行い、挙げられた課題を今後の実施に反映させていく。 幅広い年代に参加していただき、様々な意見を取り込み、アンケート回収率向上にも努める。	<b>一部達成</b> <b>【成果】</b> 各会場でアンケートを実施。収集した情報は、ニーズの掘り起しに役立つものだった。 <b>【課題】</b> アンケートの取り方の企画は事務方としての重要な役割だと考える。次に繋げるヒントを得る手段として、生きた情報を得て欲しい。また、県民のニーズはいたるところに転がっている。取捨選択する能力を、スタッフ一同養ってほしい。
良質な作品の提供	県内で活躍するアーティストおよび過去の公募企画事業実施「とりアート賞」受賞団体を招聘し、ターゲットや目的を明確にした良質な企画を実施する。	<b>概ね達成</b> <b>【成果】</b> とりアート賞受賞団体「リサーラ」を境港会場ステージへ招聘し、同じくとりアート賞受賞団体「米子東高校合唱部」を米子会場オープニングとして、一体感を演出することが出来た県内外で活躍するアーティスト(朝倉弘平氏、赤山シュウ氏)を招聘し、テーマに沿ったアートの面白さを伝えることが出来た。 <b>【課題】</b> オープニングから集客につなげていく広報計画を綿密に行う必要がある。参加団体を固定化せず、市民との連携など新規参加団体の開拓も必要。良質な企画を提供しても、集客につなげていかなければ、出演者・出展者のモチベーションにも影響する。	<b>達成</b> <b>【成果】</b> 「とりアート賞」受賞団体がステージを盛り上げた。また、県内外で活躍するアーティストがワークショップを主管し、好評を得ていた。テーマに沿ったアートの面白さを伝えることができた。
活動者(指導者、後継者、担い手)の育成	プレ企画としてアーティスト監修のもと、参加者がアートに触れることのできる企画を実施、また、作品制作をすることで、より興味・関心を深める機会とする。	<b>概ね達成</b> <b>【成果】</b> プレワークショップを2回開催し、アーティストと一緒に作品制作を行い、その作品が境港・米子会場に展示される機会を創出することにより、参加者は文化・芸術に対し、興味・感心を深める機会となった。 <b>【課題】</b> 今後もプレ企画、アウトリーチ企画を継続的にを行い、事業の認知と集客につなげていく必要がある。	<b>概ね達成</b> <b>【成果】</b> プレワークショップでの作品制作は幼稚園児が多く参加していた。アーティストに指導を受け、作品作成に参加できたことは、まさに優れた文化・芸術に触れ、興味・関心を深めたと思う。 <b>【課題】</b> 幼稚園・保育所・サークル団体等に声掛けをし、集客の基盤作りをし、その集まりの輪の中に、飛び込み参加者を拾える体制作りが必要。

	一線で活躍する活動者を講師とした、ワークショップ・勉強会を開催し、スキルアップの機会を事業に取り込むことで育成を促す。	<b>未達成</b> 【課題】 参加アーティストに対する勉強会を企画検討したが、スケジュール等により、実施出来なかった。今後、一般参加者を含め、参加機会を提供する企画を検討し、人材育成につなげていく必要がある。	<b>未達成</b> 【課題】 企画の段階から時間配分を決定し、実施して欲しい。事前準備不足は否めない。
鑑賞者の育成	米子会場では参加・体験型の企画をテーマとし、様々な出演者（活動者）と鑑賞者が触れ合う企画を創出し、鑑賞者のアートへの関心をより深いものにする機会を提供する。	<b>概ね達成</b> 【成果】 「あそぶ文化祭」をテーマに、米子会場で来場者に参加・体験できる要素を企画に取り入れ、見る、聞くだけではなく体験できる文化祭とし、来場者がアートをより近く、関心を深く持つ機会とした。 【課題】 実施者により、参加・体験の要素と質にばらつきがあった。 自主・公募企画事業の募集時点から、この観点を考慮に入れながら、進めていく必要がある。 特にステージイベントにおいて、来場者が、参加・体験することが出来ていなかった。	<b>概ね達成</b> 【成果】 ワークショップではこれまであまりやったことのないもの（織物、ポリマーレイ）があり、小さな子供でも参加しやすく、楽しむ家族連れの様子が微笑ましく映った。 【課題】 参加体験する年齢層が、幼児が中心だった。年齢層の広がりを検討する必要がある。 ステージイベントでの来場者の参加・体験は簡単ではないが、観客席を巻き込んで、手話とか、一緒に歌うとかのパフォーマンスをリードするアーティストの育成が必要。
	境港会場では祭りと共に、自主企画事業に絞り質の高いアートを展示・公演することにより、普段文化芸術に関わりの少ない方に、質の高い文化芸術に触れるきっかけを作る。	<b>概ね達成</b> 【成果】 境港会場では、展示などテーマに沿った自主企画事業を実施し、鑑賞者の多くがまつり目的の中、質の高い作品を鑑賞いただく機会となり、多くの参加者へとつながった。 【課題】 境港会場へ来場され方への米子会場来場の結びつけが不十分であった。	<b>達成</b> 【成果】 境港会場では、展示・ワークショップでアーティストが深くかわり、ステージではとりアート賞受賞団体が出演するなど、質の高い作品を提供した。水産祭りと同時開催することで、芸術とかかわりのない方々にも、文化芸術に触れる機会を提供できた。
アートマネージャーの育成	アートマネージャー、コーディネーター（ステージ・展示・ワークショップ・広報）を設定し、役割を明確にして事業推進することで、各分野をとりまとめることの出来る人材を育成する。	<b>概ね達成</b> 【成果】 アートマネージャーの企画・統括力によって、各部門のコーディネーターがそれぞれの役割に対して集中でき、各事業の責任者となり、調整・準備・企画を行い、スキルアップする機会となった。 【課題】 アートマネージャー、各コーディネーターに業務が集中し、他委員の関わりが少なく、今後、委員会全体での事業実施となるよう、役割の分担が必要である。あわせて、担当委員の固定化がみられるので、今後新たな人材活用が必要である。	<b>概ね達成</b> 【成果】 自己評価を見る限り、スキルアップはできたと思料する。 【課題】 一部の担当者に業務が集中すると全体の指揮にも影響を及ぼします。役割分担は綿密に検討して欲しい。30年度に向けて早急に企画立案体制をとって欲しい。
支援者の育成	公募、プレワークショップを通じてとりアートに関わる人を増やし、支援者の育成に努める。	<b>一部達成</b> 【成果】 公募、プレワークショップを実施し、参加者との打合せ、説明会を開催することで、とりアートに関わる人を増やした。 【課題】 とりアートに深く関わる支援者やファンを増やす活動が不足している。支援者の育成は、実施企画への関心を深めることから得られるので、支援者との関わり	<b>一部達成</b> 【成果】 プレワークショップでは実際に参加した人だけではなく、アーティストや会場の関係者等多くの人にもとりアートの存在を知ってもらえた。 【課題】 支援者やファンは常日頃の活動で増やしていく必要がある。今回のプレワークショップは幼稚園、保育所が参加

			方の検討が必要である。	していたが、その数は少なかった。行政機関への働きかけや、地域のサークルへの働きかけが急務である。
	育成した人材を活用する場の提供	公募企画事業実施者の中から、優れた企画を実施した団体へ「とりアート賞」を設定することで、翌年度以降「とりアート賞」受賞団体を招聘し、自主企画事業としてよりテーマ性を持った良質な企画を実施する機会を設ける。	<b>概ね達成</b> 【成果】 過去にとりアート賞を受賞した団体を自主企画事業に招聘する取り組みを継続して行い、かつ過去実施した地域に団体派遣を行うことで、実施者と各地域の鑑賞者をつなげる機会を創出した。 【課題】 よりよい企画者(団体)を「とりアート賞」に選定するために、委員会全体で、実施企画の内容を認知(把握)できる環境づくりが必要である。	<b>達成</b> 【成果】 「とりアート賞」を設け、過去に受賞した団体を招聘。自主企画事業としてテーマ性を持った良質な企画ができた。
統括			56.4%	64.1%

### ○自己評価総括【成果】

- ・昨年に引き続き、西部地区で広く参加できる機会を創出するコンセプトを継続し、今回初実施地域となる境港市で、「うみアート」として「境港水産まつり」と連携した。
- ・境港水産まつり会場での実施では、境港にゆかりのあるアーティストに参加いただくことで、来場者1,133名と、普段文化芸術に関わりの少ない方に気軽に触れる機会を提供できた。
- ・また、招聘アーティストの朝倉弘平氏による「風に泳ぐ魚を作ろう」など親子連れが気軽に参加できるワークショップを開催し、ワークショップ参加者197名と、遊びながらアートに触れる機会となり、裾野拡大にもつながった。
- ・昨年度連携して実施した日野町「生きいき“ひの”ふれあいまつり」へとりアートからアーティストを派遣し、対して、日野町から米子会場に出演団体を招聘することで、各地域間の交流の機会を創出した。
- ・「うみアート」、「まちアート」とそれぞれの会場でテーマ性を持ち、アートマネージャー、各部門コーディネーターが協力し、地域の施設・地域のイベントと連携することで、良質な企画、及びその実施者と各地域の鑑賞者を繋げることができた。

### ○自己評価総括【課題・その他事業に関する意見、感想など】

- ・早い段階での実施計画による会場確保、展示・ワークショップ等を含む来場者の誘導経路確保が不十分であった。
- ・アンケート回収枚数が少なく、ニーズ調査へとつながっていない。
- ・プレワークショップ等親子連れの参加につながる企画を取り入れることが出来たが、若年層(中学生・高校生)の来場者が少なく、学校への周知を行い、若年層が参加しやすい企画の検討が必要。
- ・アンケートにおいて集客の少なさへの指摘が多く、とりアート事業をどのように伝えていくのか、またどのように関わってもらうのか、広報等において更なる検討が必要であった。
- ・文化芸術分野に関わりが少なく方には、関わりにくい感じを受けた。
- ・委員会内での連携が不十分で、実施当日等に対応に困る部分があった。
- ・委員参加型の企画について、もっと早い段階から考えておく必要があると感じた。
- ・西部地区において地域の方に興味関心を普段の営みの中で持っていただきたいと思い、チャレンジ的事業内容を目指していく上で「とりアート構想」と委員会の位置づけについて、全体の方向性をもう少し明確にしていく必要がある。
- ・事業全体として、毎年の事業課題が次年度にいかされてなく、天候や集客などをふまえ、早い段階で開催時期、開催場所について再検討が必要である。
- ・本年度の入場者数の目標及び実績は延べ数でなく実数としている。

### 【成果】

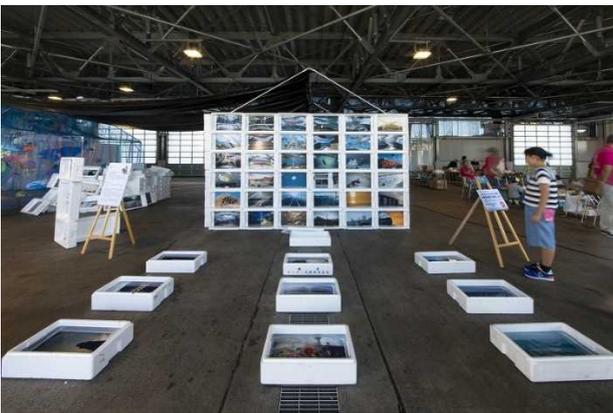
- ・西部地区の独特な移動開催が今回は境港でなされた。「うみアート」は境港水産まつりと共催して、多くの来場者を得た。境港にゆかりのあるアーティスト(写真家)の斬新な作品は好評だった。また、「風に泳ぐ魚を作ろう」のワークショップは親子連れでにぎわっていた。そして、プレワークショップでの「風に泳ぐ魚を作ろう」の作品を、この会場や米子会場に持ち込み展示するといった企画は好評を得ていた。
- ・ステージに於いてはとりアート賞を獲得した団体が出場し盛り上げに一役買った。郷土芸能は文化交流を促進した。

### 【課題】

- ・米子会場での「まちアート」のインパクトが薄かった。境港会場の流れを米子会場に引き寄せようとした意図は理解できるものの、中途半端だったという感想は拭えなかった。
- ・アンケートによる情報収集に工夫が欲しかった。目標配布枚数 1,500 枚に対して、実績が 509 枚だったのは、問題で、危機感を覚える。

### 【その他事業に関する意見、感想など】

- ・会場選びについて、境港の開催を海とくらしの史料館など視野に入れてみてはどうだろうか。うみアート満載の施設を利用することで、違った切り口から文化芸術のすそ野が広がると思う。
- ・西部地区は 2 市 7 町村で構成されており、市で開催するときは会場を一か所にして集中する事は出来ないだろうか。「うみアート」というテーマ一本でも十分とリアートの趣旨は実践できる。特に境港、米子間は交通の便が良く、来場者を多く受け入れることが可能。「おさかなロード」を利用した企画、海とくらしの史料館や境港台公園を会場にした構想等。そのうえ、水木しげるロードは年間 200 万人の観光客を迎い入れている。米子駅 0 番乗り場から鬼太郎列車が境港に向かって、弓ヶ浜半島を走っている。これらの素材を使ってとリアートを構想して欲しい。



第15回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2017 東部地区事業(東部地区企画運営委員会)

平成29年12月16日(土)～12月17日(日) とりぎん文化会館

文化芸術事業評価シート(とりアート事業(総合芸術))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目(※1)	自己評価	委員会
	県内の文化芸術の裾野の拡大	多様なジャンルの文化芸術の鑑賞・体験の機会を提供することで、裾野の拡大を目指します。	<b>達成</b> 【成果】 ステージパフォーマンス、アート体験ワークショップ、展示それぞれにおいてバランスよく多様なジャンルの文化芸術を鑑賞・体験する機会を提供することができた。演劇ワークショップや写真展示など、新たな実施団体・実施者の参入もあり、裾野の拡大を図ることができた。	<b>達成</b> 【成果】 これまでになかった新たな団体の参加もあり、ジャンルの広がりが見え、会場も賑わいを見せていた。
		これからの鳥取の文化芸術を担う若年層(子ども・学生)の出演・参加・来場を促し、地域文化の裾野の拡大を目指します。	<b>達成</b> 【成果】 たくさん子どもたちや高校生、若手出演者や出展者の参加があり、これからの鳥取の文化芸術を担う若年層に向け、地域文化の裾野の拡大を図ることができた。	<b>達成</b> 【成果】 子供たち、若年層の参加が見られ裾野の拡大につながっている。今後は鑑賞者にも若年層の増加を期待する。
裾野の拡大	県民誰もが気軽に文化芸術に触れる機会の提供	フリースペース・展示室に企画全般を集約し、来場者が気軽に多様なアートに触れる機会を提供するとともに、にぎわいの創出を図ります。	<b>概ね達成</b> 【成果】 ワークショップ会場である展示室の扉を全開にし、フリースペースとの垣根をなくしたことで、一体的な会場の中で参加者が気軽に周遊できるレイアウトとした。一体的な会場を作ることで、にぎわいの創出につながった。 【課題】 一方、展示室、フリースペース以外の会場が孤立した感じであった。構造上仕方がない部分もあるが、2階に誘導する案内などにもっと工夫が必要と感じた。	<b>概ね達成</b> 【成果】 フリースペースにステージが戻されたことでコンセプトを意識したレイアウトになり回りやすく自然な賑わいを見せていた。 【課題】 しかし二階への誘導が不明瞭で、上がってみても閉め切った会場に張り紙1枚と言う不案内な状況。参加団体の意識の低さも感じられた。
		紙媒体、SNS、マスコミなど多様な媒体を活用した広報活動を行い、また商業施設と連携したイベントを実施し、情報の発信に努めます。	<b>概ね達成</b> 【成果】 イベント前、イベント期間中に様々な媒体を通じて情報を提供し、悪天候の中、関心のあるお客さんに集まっていた。特に小ホールイベントは内容も非常に良く多くの方に来場いただいた。また、イオンモール鳥取北店において、「とっとり県民の日」と連携し、情報発信を行った。 【課題】 ただ一方的に、情報を発信するだけでなく、より多くの方に来場していただく“仕掛け”が必要。また、イベント前の準備の様子なども積極的に情報提供できればよかった。	<b>概ね達成</b> 【成果】 様々なメディアを使っでの広報活動は評価できる。ポスターやチラシも印象的で開催中のSNS 発信も様子がわかりストーリーを感じさせられた。 【課題】 誰もがみんな興味があるものとなると、難しい面もあるがそれぞれの年代に合った発信方法でのアプローチと、委員だけが情報提供をするのではなく、各団体の意識を高めそれぞれが発信していけるよう指導していくことも大事だと感じる。

頂点の伸張	県内の文化芸術の質の向上	<p>東部地区の郷土芸能・文化に触れ、地域の文化を見直し、活かすことで地域文化の再生・活性化を目指します。</p>	<p><b>達成</b> 【成果】 貝殻節、傘踊り、高校生の麒麟獅子舞、鳥取の風景写真、因州和紙の作品づくりなど、地域の文化芸術に触れていただく企画を多く作ることができた。</p>	<p><b>達成</b> 【成果】 地域文化に触れる機会はとても興味深く子供たちの参加もありとても評価できる。今後はマンネリ化していかない工夫に期待したい</p>
		<p>事業実施者へ準備・運営・撤去作業への参加を促し、事業に関わる全員でともに創り上げる事業を目指します。</p>	<p><b>概ね達成</b> 【成果】 事業実施者にも準備や片付けに例年以上に多くの方に参加していただき、非常に手際よく、スムーズに運営することができた。 【課題】 準備、撤去には多くの方の参加があったが、運営の面では、声掛けが十分でなかった。運営に携わってもらうことで、当日スタッフの人的な応援体制の拡充ができればよい。</p>	<p><b>概ね達成</b> 【成果】 ステージ運営はスムーズに動いていたように感じる。 【課題】 実施者アンケートの中にはお客さんのような立場で参加の意見もあり、まだまだみんなが運営に関わるという意識の低さを感じる。全てに関わることはなくてもどの部分に参加してもらいたいかをあらかじめ明瞭にして参加協力を得られる体制が必要</p>
	県民ニーズの把握	<p>次年度以降の事業改善とレベルアップのため、アンケート回収率向上に努めます。</p>	<p><b>達成</b> 【成果】 アンケートプレゼントの実施とスタッフの呼びかけでアンケート回収率向上を図った。昨年度の反省を活かし、スタッフによる声掛けを徹底したことで、回収率は向上した。</p>	<p><b>達成</b> 【成果】 アンケートの回収率が向上のことは評価できる。会場にいる限り気づかなかったのかアンケート回収の声を聞くことはなかったとの意見もありムラのない声掛けに期待したい。</p>
	良質な作品の提供	<p>鳥取県出身で、県外で活躍するプロのアーティストを招聘し、良質で上質なアートの提供を目指します。</p>	<p><b>達成</b> 【成果】 鳥取出身のアーティスト、写真家の水本氏、オカリナ奏者の河崎氏、マリンバ奏者の西尾氏を招聘し、首都圏や関西で活躍されるプロの良質で上質なアートを来場者に提供できた。</p>	<p><b>達成</b> 【成果】 良質でさらに鳥取県出身のプロの召喚は優れたアーティストに触れる良い内容。今後も続くことを期待したい。</p>
		<p>委員会と実施者が事業趣旨を共有し、同じ目標に向かって推進することで事業全体の質の向上につなげます。</p>	<p><b>概ね達成</b> 【成果】 公募説明会や参加者全体会議などを実施することで、委員会が目指すもの、テーマや会場のイメージをよく理解していただき、出演、出展内容に深く反映してもらえた。出演、出展内容に統一感があり、事業全体の質の向上につながった。 【課題】 演奏内容に被りが見受けられた。演奏曲目については、十分に配慮していなかった。このような場合、今後どのように対応するか検討する必要がある。</p>	<p><b>概ね達成</b> 【成果】 テーマに沿ってという理解は来場者としては感じられないものもあったが、ある程度の統一感を感じられた。 【課題】 内容のかぶりは前もって早めの周知で解決すると思われる。また被りの曲もジャンルが違えば、違う楽しみ方もあることを感じてもらうには舞台進行のMCの力量しだいということを意識していただきたい。</p>
人材育成	<p>地域や教育機関と連携し、地域文化の継承に取り組む子どもたちを取り上げた企画を実施することで活動者の育成を図ります。</p>	<p><b>概ね達成</b> 【成果】 小中高生による麒麟獅子舞、オーケストラ、ダンス、食ブースの出展など、教育機関や地域の活動団体と連携し、企画を実施することができた。子どもたちにとっても、外部の舞台に出演することで、刺激を受けるいい機会となっているのではないかと。 【課題】 大学生以上との連携がなかった。教育機関の中でのとりアートの知名度を上げ、より一層の協力を得られるよう、努力していく必要がある。</p>	<p><b>概ね達成</b> 【成果】 ステージには多くの若者の出演もあり教育機関との連携が感じられた。特に高校生の出展、出演は特色がありよかった。子供達にとっての外部出演は良い刺激になると思う。 【課題】 中部では見られた地元大学生の参加が見られないのは残念。鳥大地域学部などの参加者が増えると企画面で面白いことが起こりそうな気がするが、連携を深めて欲しい。</p>	

	鑑賞者の育成	文化芸術を通じて、性別・年齢・障がいの有無に関わらず、あらゆる人たちが交流できる事業を目指します。	<b>概ね達成</b> <b>【成果】</b> 学生のステージ、障がい者のステージや展示などを通じ、実施側、観客側、双方の立場であらゆる人たちが集まり、作品を鑑賞し、または参加し、交流する事業が提供できた。 <b>【課題】</b> アンケート結果から、男性、そして20代の来場者が少ない。毎年の課題ではあるが、引き続き検討が必要。	<b>概ね達成</b> <b>【成果】</b> 足元が悪かったにもかかわらず多岐にわたる立場の方の参加が見られ、交流が持たれた。 <b>【課題】</b> 来場者はおそらくほぼ関係者家族、友人知人。そうでない人が行ってみようかと思う企画作り出すことは容易な課題ではないが今後の検討を期待したい。
	アートマネージャーの育成	委員会に専門部会を設け、アートマネージャーがその部会に出席することで、専門的な知識を習得するとともに事業全体をまとめることのできるよう育成を図ります。	<b>達成</b> <b>【成果】</b> 専門部会とアートマネージャーの共同作業で、レベルの高いイベントづくりを行うことができた。委員は、より専門的な分野において、委員がアートマネージャーをフォローし、アートマネージャーは委員の専門性を汲み取りながら事業を作り上げる事に成功していた。	<b>達成</b> <b>【成果】</b> 会場の中だけの状況では判断ができないが、委員とアートマネージャーとの協力体制は出来ているように感じる。
	支援者の育成	様々な業種の方や企業、商業施設等と連携することで、地域のアートを支える支援者の拡大を目指します。	<b>一部達成</b> <b>【成果】</b> イオンモール鳥取北店でとりアートのステージとワークショップを行い、とりアートをアピールすることができた。また、地域の「おいしい」店に出店していただき、食ブースを充実させることができた。 <b>【課題】</b> 企業とは、積極的に連携できたとは言えない。とりアートの支援者拡大を目指し、同じところに依頼するのではなく、新規開拓にも力を入れなければならない。	<b>一部達成</b> <b>【成果】</b> 大型商業施設でのアピールは、イベントのPRになり評価できる。地域の食文化としての食ブースもとてもよかった。 <b>【課題】</b> 企業との連携という点では感じられない。新規開拓は容易ではないが商店街との連携に取り組み商店街からとりアートへの来場者誘導などはできないものだろうか。考えていただけることを期待したい。
統括		79.5%	79.5%	

### ○自己評価総括【成果】

- ・数年ぶりにフリースペースにメインステージを設置したことで、にぎやかさや一体感が出たのではないかと感じる。
- ・開放的な場所（フリースペース等）でのステージイベント、ワークショップに加え、今回、小ホールでのお楽しみイベントなど、2日間を通して十分楽しめるとともに、地元の文化活動に触れるいい機会づくりになった。
- ・小ホールの2企画は、趣の違う挑戦的な企画であり、目標に掲げた多様なジャンルのアートを提供することにつながった。
- ・展示室、フリースペースは一体的な空間となり、歩くだけでアートに触れることができるようなレイアウトができていた。
- ・鳥取の星ステージや、小ホールイベント、因州和紙写真展示では質の高いプロのパフォーマンスを楽しめた。質の高いものを目指すことができた。

### ○自己評価総括【課題・その他事業に関する意見、感想など】

- ・多彩なジャンルの団体が出演、出展しているが、単なる発表の場としてだけでなく、これをきっかけに団体間の交流や連携につながる工夫も今後検討することが必要である。
- ・東部地域の伝統芸能においては、単発で終わるのではなく、今後も繰り返し取り入れて継続して実施することで次世代の担い手を育成していく必要がある。
- ・実施後などに会場にとどまってお客の団体を観賞するようなどころまではなかなかつながらなかった。実施者も含めとりアートに関わる全員で事業を盛り上げるようになればと思う。
- ・準備、撤収作業に参加していただける団体に偏りが生じているように感じるため、引き続き声掛けをして本当に全員で創り上げるイベントにしていくべき。

- ・イベント時だけでなくある程度通年を通して委員会と実施者の連携を継続する仕組みがあればもっと認識の共有やネットワーク、PRの拡大にもつながると思う。
- ・2日目は雪の降る中での開催となった。開催時期、寒い時期で実施するうえでの対策など、さらに改善が必要である。
- ・プロのアーティストが関わっているというアピールが十分にできていなかった。アピールの仕方によっては、さらに多くの方に足を運んでいただけた可能性があった。
- ・一過性のイベントではなく、年間を通して、例えば、出展団体を含む関係者などのネットワークを活用した情報発信・共有を更に図るなど、「とりアート」をもっと広く県民に浸透させるためことも試みたらいいのではないかと感じた。
- ・メイン、広報、人材育成部会、東中西部各地区委員会の横のつながりが強くなれば、とりアートの目標により近づくのではないかと感じた。
- ・当初、入場者数の目標はフードコート利用者を含めての延べ人数を設定した。実績は、文化芸術に関わる事業の入場者数を報告している。フードコート利用者を含めると、延べ人数4,500名程度となる。

#### 【成果】

- ・会場レイアウトが今回は効果的であった
- ・全体的に落ち着いた雰囲気ですてージが食ブースや2階からも眺められるのはとてもよかった。
- ・食ブースも充実して地元感が有り、求めてみようという気持ちになった。さらに滞在時間も長くなった。

#### 【課題】

- ・小ホールイベントは屋の参加者とは違う層を呼び込むものになって東部の特色でもあるが、入場料を取ることを考えると、さらに人選、企画の検討をしていただきたい。
- ・フリースペースで十分というようなものや、反対にフリースペースではもったいない出来栄で小ホールに上げて良いのではと思うようなものもあり、その線引きがどうなっているのか観ている側には疑問が生じた。
- ・今回は特に足元が悪い中の開催となった。時期は他地区との兼ね合いもあり難しいことかと思うが考慮していただければありがたい。
- ・入場者数の目標と実績を統一して設定・報告してほしい。一方はフードコート利用者を含め、もう一方は含めないとすると、実態が分かりにくい。

#### 【その他事業に関する意見、感想など】

- ・全体的に静かに落ち着いた雰囲気。反対に静か過ぎてWS（ワークショップ）の会場や時間の案内など見落としがちなところがあった。
- ・2Fの会場は、とりアートでやっているのか別の人が来てやっているのか不安になるぐらい実施者のアピールがないのに驚いた。
- ・実施者同士のコミュニケーションを深め、お互い案内できるぐらいになるといいのではいつも感じる。
- ・教育関係との連携は小中高意外にも大学、短大、高専、専門学校など高等教育関係についても積極的に行って欲しい。
- ・アートマネージャーによって色が変わることを考慮して新しい力、若い柔軟な考えを取り入れ凝り固まったイベントではなくいろんな挑戦を仕掛けていける他県にもアピールできるとりアートになることを期待する。



第39回鳥取県書道連合会展(鳥取県書道連合会)

平成30年3月14日(水)～3月18日(日) 鳥取県立博物館

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(展示系))

評価指標(=取組目標)			達成度及びコメント	
大項目	中項目	小項目	自己評価	委員会
伝承と再発見	鳥取の文化アイデンティティの確立	理事以上の役員による、読みやすく親しみやすい漢字仮名交じり文作品(「特別展示:童謡・唱歌を書く」)を展示し、童謡・唱歌のふるさと鳥取をアピールする。	<b>達成</b> 【成果】アンケートの記述項目を見ると、多くの人に親しみを持って見ていただけたことがわかる。	<b>達成</b> 【成果】「童謡・唱歌を書く」は作品の質も高く、多くの人に親しみやすい展示であり、アンケートからも満足度の高さがうかがえる。
創造	質の高い文化芸術活動	600名弱の会員の中から150人を選抜することによって、展示会の質の確保を図るとともに、知事賞等の賞を設け、受賞を目指して競い合うことを通じて全体の書道技術の向上を目指す。	<b>概ね達成</b> 【成果】県内の書展では県展に次いでレベルの高い書展となっている。受賞作は無鑑査に勝るとも劣らない出来映えと思われる。 【課題】文字の崩しに今少しの慎重さが望まれる。	<b>概ね達成</b> 【成果】芸術性を感じる質の高い作品で若い受賞者の作品も素晴らしい。 【課題】出展された選抜者だけでなく会員全体の書道技術向上にさらに取り組んでもらいたい。
		書写・習字レベルとは異なった書作品を鑑賞する機会を設けることで、一般の人々に刺激を与え、書が芸術であることを実感して自らの活動に活かしていただくことを期す。	<b>概ね達成</b> 【成果】展示会を観て刺激を受け、書に対する理解を深め自らの学習に取り入れようとするアンケート回答があった。 【課題】書が読めない鑑賞できないと感じている人がまだ多い。	<b>概ね達成</b> 【成果】「童謡・唱歌を書く」は親しみやすいだけでなく質も高く、一般の人にも刺激と感動を与える内容で、アンケートでも「挑戦してみたい」と記載されたものがある。 【課題】「書が読めないのか何かかいてあるのか…」という鑑賞者の会話を聞いた。書の作品鑑賞は、読むというよりも全体から感じる芸術であることをもっと浸透させてほしい。
拡大	県民の文化活動支援	展示会のオープニングで、地元の合唱団をゲストとして招き、唱歌を演奏していただくことによって、「特別展示:童謡・唱歌を書く」とのコラボレーションを図る。	<b>達成</b> 【成果】開会式の前、合唱団7名の方に童謡・唱歌を二曲歌っていただいた。特別展示の部屋では口ずさむ人も見られた。	<b>達成</b> 【成果】開会式に合わせて、童謡、唱歌の合唱が披露され、開幕式から参加していた来場者には「童謡・唱歌を書く」特別展示への興味も深まったと考える。
育成	人材育成(指導者、後継者等)	600名弱の会員の中から150人を選抜することによって、展示会の質の確保を図るとともに、知事賞等の賞を設け、受賞を目指して競い合	<b>概ね達成</b> 【成果】アンケートの中に特別賞に対する具体的な講評もあり、作品の良さを実感していただけたのは良かった。 【課題】会員の高齢化のためか、冒険的・挑戦的な作品が増えることが難しい。	<b>概ね達成</b> 【成果】知事賞受賞者は20歳代の若者で、受賞は励みになったと思う。新聞記事によると本人コメント中に「書の面白さを多くの人に知ってほしい」とあり、今後の活躍に期待が持てる。

	うことを通じて全体の書道技術の向上を目指す。		【課題】 挑戦的な作品へ取り組むのは、活動者の年齢の問題というよりも意識の持ち方・考え方ではないか。まだまだ挑戦は可能だと感じる。
	作品集を発行し、出品作品や以前の様々な活動や各種展覧会での受賞を記録として残すことで、モチベーションの向上や責任感を高めるとともに、書道愛好家への刺激を期す。	<b>概ね達成</b> 【成果】 かなりのエネルギーを割いて作品集を刊行した。よい出来上がりとなったと思われる。 【課題】 出品者以外への配布が予算との関係もあり、広範囲にできなかった。	<b>概ね達成</b> 【成果】 作品集は分かりやすく、釈文や当年度の事業活動等も記載されており、質の高いものになっている。愛好家への刺激になったと考えられ、後々の資料としても貴重である。 【課題】 会場で来場者が自由に作品集を閲覧できるように工夫を望む。
総括		77.7%	77.7%

### ○自己評価総括【成果】

- ・展覧会に対する満足度は高いものであった。アンケート回収率は昨年より倍増した。

### ○自己評価総括【課題・その他事業に関する意見、感想など】

- ・展示方法や新しい作風に向けての挑戦の面でやや課題が残った。観客動員は地元頼りの状態が続いている。

#### 【成果】

- ・全体的に作品の質が高く、「特別展示 童謡・唱歌を書く」は親しみやすく人気がある。開会後のギャラリートークや釈文は鑑賞の手助けとなる。継続していただきたい。

#### 【課題】

- ・入場者数が目標 800 人に対して実績が 468 人で目標の 58.5%にとどまり、アンケート配布枚数も 1000 枚の目標に対して実績が 300 枚であり、いずれも目標と実績の数値があまりにもかけはなれている。アンケート結果によると、県東部・西部からの来場者の割合はそれぞれ 6～7%代と低く、県中部が 76.7%と多くを占めている。県中部が会場であり、東部や西部からも来場しやすい環境である。事業実施者の総括にもある通り、来場者が地元頼りとなっている。実施者としても課題を把握しており、対策が求められる。
- ・人気の高い「童謡・唱歌を書く」の展示室にもアンケート回収箱が設置してあり、アンケート回収率向上に向けた工夫がなされていたが、鑑賞後の退館前に、スタッフからアンケート記入への声掛けはなく、出口付近での専用の記入テーブルの設置もなかったようだ。回収率は平成 28 年度の 8.4%から回復したが、目標に及ばなかった。平成 26 年度は 40.2%の実績があり、引き続き回収率向上に向けて取り組んでもらいたい。
- ・「県民への鑑賞機会の拡大」について目標設定がなされていないが、入場者が定量目標を大きく下回っている現状を鑑みると、この点での目標設定と、その達成に向けた努力が必要となろう。

#### 【その他事業に関する意見、感想など】

- ・出品目録と作品集のあいさつ文の中において、「高齢化が進むばかりで、如何ともしがたい」と現状を分析し、高校生の書道パフォーマンスについて、「邪道だと切り捨ててしまうのではなく、むしろこの生徒達にいかにも大道を歩ませるか、協力してほしい」「是非一度でもいいから指導に加わって下さい」とあり、若い活動者や後継者の育成が課題であることを認知しておられるが、人材育成の目標設定には、書道に関わる高校生をいかに来場者に結びつけるかという点がなく、子どもたちへの鑑賞機会の提供についての目標設定もされてない。事業実施者がきちんと課題を把握しておられるので、その課題をいかにクリアするか、目標を設定して取り組まれてはどうか。
- ・アンケートでも分かる通り、来場者は 60 歳代以上の高齢者が 73%以上を占めているが、開会式が 45 分間あり、硬い床面にずっと立っている一般来場者（特に高齢者）には辛いのではないかと。開会式を 30 分程度に抑えられると良いのでは。
- ・今年度の「童謡・唱歌を書く」は昨年、一昨年よりも良かったと感じた。例えば、特—1 の「春が来た」は、文字列の間の空間部分に舞う蝶の姿が見えるようであった。特—4 の「海」は、手前の文字列が砂浜

に見え、大きな「海」の字に水平線まで続く大海原が目の前に浮かんだ。特—7の「せんろはつづくよどこまでも」は、筆致から「せんろ」が人生＝苦楽の意味に見え、はっとした。

- ・受付時に（芳名帳への）住所・氏名の記載を促された。住所は個人情報なので記載したくない人もあると考えられるが、その場では断りにくい環境である。任意で書きたい方だけが書けるようにならないか。個人情報の管理についても大切なことである。
- ・文字の意味を読み取るより、書から何を感じるのかを芸術性の入口としたいが、書の濃淡、筆の運び、バランス等の見方を広く教宣してほしい。「書」の喜びを一般の人にどう伝えるか、理解させるかについて、もっと工夫が必要だと感じる。

## IV 専門家評価

### 第15回鳥取県総合芸術文化祭とリアート2017メイン事業 とリアートダンスプロジェクト「磨公部主」

平成29年5月7日（日） 米子コンベンションセンター

鳥取大学地域学部附属芸術文化センター 木野彩子

#### (1) 基本方針に基づく評価

##### (1)-1 企画意図

県内のダンサーによるダンス作品ということで、県内のネットワークを最大限利用し、製作したことにこだわりが見られる。シェークスピア劇（マクベス）をもとに舞踊化することでストーリー性をもたらした。（客演として鳥の劇場の齋藤頼陽氏を招いており、ここにも鳥取県民にこだわっていることがわかる。今後の可能性としては例えば演出やドラマトウルクという形で演劇専門家に関わってもらうことで、さらなる戯曲の解釈、深みにつながるのではないかと感じられる。）

アンケートによるとわかりやすいストーリー展開にしたもののそれでもわからなかったという意見は出ているが、このように門戸を広げようとした努力が認められる。ダンスという一つの枠にこだわらずメディアミックスを目指すことでオリジナリティを作り出そうとしているものと考えられた。

##### (1)-2 実施手法

演劇的手法を取り入れた舞踊の試みという点では昨年米子で上演されたNoism”ラ バヤデー”（金森穰振付、平田オリザ脚色）を上げることができる。モダンバレエの世界では古典演劇の舞踊化は多くあり、マシューボーンやマッツエックの作品などミュージカルのように”ダンスはよく分からない”という観客も親しみやすいため、近年特に増えている。プロジェクトマッピングあるいは映像の利用はコンテンポラリーダンスでも増えており、ここ数年は照明も映像が兼ねるというようなことも起きている。舞台美術に頼らないシーン転換なども可能になり、ダンスと映像の親和性は非常に高い。

映像については劇場の広さ、規模によりプロジェクターのレベルを考える必要がある。今回全体的に暗い印象の舞台となったのは映像を生かすために照明を落とさざるをえなくなったためだと考えられるが、このようなテクニカルな面では県外から専門家を招く必要があるのではないだろうか。おそらく現在使用しているプロジェクターであってももう少し小規模の劇場であれば十分強度が出せたはずとも考えられる。（なお、映像のため暗くなっている分、逆光の使い方があまりに眩しく、観客も目を押さえながら見ている人も出ていた。ストリートダンスではよく使う照明技法であると思うが、そのあたりのバランスや、音割れといったテクニカル面での甘さが気にかかった）

##### (1)-3 来場者の属性

年齢層が去年のJAZZと比べると比較的若く、10代や子供も含まれていた点は評価ができる。（ただし出演者の友人、家族の可能性は非常に高い）例年と比べ観客が多かったという話も聞いている。出演者に県内ダンス教室の指導者も多く含んでいることから、その弟子、生徒も多く来場していたと考えられ、県内の幅広いところから集客ができたと言える。一方で普段お世話になっているであろう鳥取大学ダンス部（部員70名）は「知らずにイベント入れちゃいました」と話していたことなどを見ると、まだまだ広報の仕方などは考える必要があり、チラシの配布箇所など工夫できることは多いのではないだろうか。実施者評価でフェイスブックなどを早くから使用すべきだったとあげていたが、特に若い世代の興味関心が多いだろうストリートダンスのジャンルなのでツイッターなどへ広げてもいいのではないだろうか。また、問合せ予約先などもメール等含め対応するとさらに広がるだろうと考えられる。

また私自身がダンス専門でもあるので、広報など協力できることがあればお声掛けいただけたらと思う。大学ではあるが芸術文化センターに所属し勤務しているので、県内のアート情報をつなぐ働きをしているため利用してほしい。

#### (1)-4 観客の反応及びアンケート結果

アンケートの結果はおおむね好評であり、ダンスの完成度の高さを評価するもの、「かっこよかった」という意見が多く現れた。衣装なども含め舞台をしっかり固めていることや、しっかりリハーサルを重ねて作った甲斐が出ており、評価できる。

再演を望む声が多く出ており、おそらく集客の問題で1回公演となっているが、もし可能であれば県内他地域での公演などを考えてみてもいいのではないだろうか。

昨年評価シートに「2000万という予算は県の外からも観客を呼び込めるような作品を作り出しうる規模の予算である。鳥取県から日本全国、あるいは世界へと発信するような何かを作り出していくのか、あるいは人材育成のためのものなのか。前者であればよりプロフェッショナルを求める必要があるだろうし、極端に言えばよりオリジナル色を打ち出す必要がある。後者であればより若い世代への働きかけ特に教育機関との連動が不可欠であろう。」と書いた。今回の場合はプロフェッショナルさを売りにして作っていると思われるため、そこで作ったものを広げない限り次には繋がらない。上演回数を重ねるといことは口コミなどで広まっていくという意味でも非常に重要で、単なる友人、家族、教え子だけではない観客層を増やすためにも複数回公演していくというのがポイントとなる。

また、2000万という規模について、イメージがわきにくいかもしれないが、例えば芸術文化振興基金が平成29年度に設定した現代舞台芸術（舞踊）への助成金の総額は6000万ほどの金額で45件の団体に支払われる。アートマネジメントを手がける専門家のいるカンパニーが取り合っているのが現状である。中には1ヶ月近くにわたって開かれる小劇場ダンスのフェスティバルやクラシックバレエ公演なども含めてその金額であり、それと比べると多額であることがよくわかる。それを一回の舞台公演で消費してしまうのは非常にもったいない。これを土台に、その先、例えば鳥取県発のダンスカンパニー公演などがおきていくことも見越して動く必要があるのではないだろうか。

予算のある発表会ではなく、公演といえるかどうかの境目は非常に難しい。これは入場料を取る取らないの差ではなく、クオリティの問題である。さらなる観客層、特に一般への浸透を考えた際、無料で参加できるような何らかのイベントや学生向け公演（鳥の劇場や高知県美術館ホールで始まっている試みで、リハーサルを学校巡回型で行うというもの）、あるいは学生や子供の金額を極端に安く設定する（むしろ大人の料金はもう少し上げてもいいのではないか）ということも共に考えていきたい。公的資金を運用する以上、県民文化祭だからと甘えてはいけけないのではないか。これは昨年投げかけた疑問と合わせ、マネジメント人材育成も含めた今後の課題であると思われる。

#### (2) 公演に対する総評

この県民文化祭の目標をどこに設定するかは大きな課題である。鳥取でなければ見ることができないオリジナリティ溢れる試みとするためにはまだブラッシュアップできるところがあるのではないか。例えば音楽の要素、演劇の要素、それぞれにさらなるコラボレーションを図ることができそうである。継続的に作品制作を行っていくことで見えてくるのではないだろうか。若手のダンサーたちが、もっと小規模であってもコンスタントに公演を続けていくことを期待したい。元来ストリートダンスは黒人たちのエネルギーから始まった。場所も選ばず、個性のぶつかり合わずそのエネルギーが肝である。今回の試みによりできたネットワークが今後に生かされることを祈る。

有名な作家を呼ぶか呼ばないかではなく、県内の力にこだわった点もこのようにネットワークができたという意味で評価できる。しかし一方で広報活動などが県内向けのものになり、内輪になってしまうがちである。メディア（新聞など）に取り上げられても県内にとどまってしまう傾向があるため、どのようにして広げていくかが今後の課題になっていくのではないだろうか。

#### (3) さいごに

前回のJAZZの菊池ひみこさんに引き続き、実演家でありながらプロデュースをするという非常に難しい立場にあった目次さんはじめ皆さんの努力が感じられる。ただ、この事業は金額も大きく、規模も通常の舞台公演レベルを超えるものであるため、何らかの専門家によるディレクションが必要ではないかと感じている。長い目で見て県の文化事業はどのような方向に進むべきかという方向づけである。とりアートで言えば3年間を有効に利用し、人材育成部門、教育普及部門と舞台公演部門それぞれに関係者を配置し、集団で作り上げていく必要があるだろう。

これら文化政策全般となるが、現在鳥取にはないアーツカウンシルの設置も考えるときではないだろうか。アーツカウンシルとは専門性を持つスタッフが芸術文化事業への支援を行う独立機関で

あり、行政とも文化芸術側（実演者や製作者）からも独立して公正にまた明確に計画を立てていくものである。現在は東京、大阪、横浜などの大都市に集中している印象があるが、今後広まっていこうと考えられるので最後に紹介をして終わりとしていたい。

#### 参考資料

芸術文化振興基金平成 29 年度助成対象活動

[http://www.ntj.jac.go.jp/assets/files/kikin/joho/h29/20170329\\_kikin.pdf](http://www.ntj.jac.go.jp/assets/files/kikin/joho/h29/20170329_kikin.pdf) (2017. 7. 30 閲覧)

ニッセイ基礎研究所吉本光宏によるレポート地域アーツカウンスルーその現状と展望

<http://www.nli-research.co.jp/report/detail/id=53306?site=nli> (2017. 7. 30 閲覧)

（諸外国の例などは金額規模も大きいことからなかなか参考になりませんが、国内例と 6 ページ目日本版地域アーツカウンスルーへの展望あたりから読んでいただければ）

## 鳥取県文化芸術事業評価委員会

### ■委員名簿

氏 名	職 名 等	備 考
おのうえ あきら 尾上 明	新日本海新聞社記者	会長
なかむら ゆりこ 中村 由利子	アトリエ yuri (フラワー&アート工房)、 ワークショップデザイナー	副会長
いしだ たけひろ 石田 健博	米子市民劇場会員	
いわさき るり子 岩崎 るり子	米子市文化協議会 (米子マンドリンオーケストラ)	
おぐら ひろし 小椋 博志	倉吉室内合奏団 (コントラバス)、 元河北中学校長	
こんどう えいこ 近藤 映子	鳥取女声合唱団団長、 鳥取市文化団体協議会理事	
なんげ ひさみつ 南家 久光	行政書士 (南家行政書士事務所)	
まえだ なつき 前田 夏樹	鳥取短期大学生生活学科住居・デザイン専攻 准教授	
くもさか ひろみ 雲坂 紘巳	イラストレーター	
こだに じゅんこ 小谷 順子	倉吉文化団体協議会常任理事	
さえき てつや 佐伯 哲哉	とっとり花回廊	
たにぐち ひろのり 谷口 博教	元総務省島根行政評価事務所長	
なかがわ まさあき 中川 正昭	鳥取シティバレエ事務局長、 鳥取市文化団体協議会理事	
ふじおか ちなつ 藤岡 千夏	鳥取大学4年生	
ほんだ ゆみこ 本田 祐美子	米子管弦楽団	

■事業別評価報告書執筆担当一覧

番号	主体	団体名	事業名	期日	実地 検証 委員 数	執筆委員 (●:主担当)
1	鳥取県総合芸術文化祭実行委員会	とリアート ダンスプロジェクト	とリアート2017メイン事業 演劇的ダンス「魔公公主」	5月7日(日)	9	●岩崎委員 藤岡委員
2	鳥取県	鳥取県 地域振興部文化政策課	第8回伝統芸能まつり	6月18日(日)	3	●近藤委員 尾上委員
3	鳥取県	鳥取県 地域振興部文化政策課	第61回鳥取県美術展覧会	9月16日(土) ~11月27日(日)	12	●谷口委員 小椋委員
4	鳥取県総合芸術文化祭実行委員会	中部地区企画運営委員会	第15回鳥取県総合芸術文化祭・ とリアート2017中部地区事業	11月18日(土) ~11月19日(日)	5	●前田委員 中村委員
5		西部地区企画運営委員会	第15回鳥取県総合芸術文化祭・ とリアート2017西部地区事業	10月8日(日) 12月2日(土) 12月3日(日)	7	●南家会長 谷口委員
6		東部地区企画運営委員会	第15回鳥取県総合芸術文化祭・ とリアート2017東部地区事業	9月10日(日) 12月16日(土) 12月17日(日)	6	●中村委員 雲坂委員
7	鳥取県文化団体連合会	鳥取県書道連合会	第39回鳥取県書道連合会展	平成30年3月14日(水) ~3月18日(日)	4	●尾上委員 小椋会長

## ■評価委員会の開催状況

回数	開催日	報告・協議内容
第1回	平成29年 4月24日（月）	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 平成28年度評価報告書について</li> <li>(2) 平成29年度評価方針・評価方法について</li> <li>(3) 平成29年度評価対象事業について</li> <li>(4) 評価事業の実地検証・執筆担当について</li> <li>(5) 事業評価シートの項目追加について</li> </ul>
第2回	平成29年 8月4日（金）	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 評価対象事業の実地検証・執筆担当について（未確定分）</li> <li>(2) 「とりアートメイン事業・磨公部主」「伝統芸能まつり」の評価案・専門家評価について及び実施事業者との意見交換会</li> </ul>
第3回	平成30年 3月22日（木）	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 「とりアート中部地区」「とりアート西部地区」「とりアート東部地区」「第61回鳥取県美術展覧会」の事業実施者への評価報告及び意見交換</li> <li>(2) 平成29年度評価対象事業の評価確定について</li> <li>(3) 平成30年度評価対象事業（前半開催）の実施検証・執筆担当について</li> </ul>

## 鳥取県文化芸術事業評価委員会設置要綱

### （目的）

第1条 県が実施又は助成する文化芸術事業のうち、次条に掲げる事業を年度ごとに点検することにより、当該事業における良質な作品創造や県民の文化芸術事業への鑑賞、参加の機会の充実及び効率的な事業の運営方法を確立することを目的に鳥取県文化芸術事業評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

### （評価対象事業）

第2条 評価対象事業は、委員会と県が協議のうえ、次に掲げる事業のうちから選定する。

- （1）鳥取県総合芸術文化祭主催事業
- （2）鳥取県文化団体連合会加盟団体助成事業

### （委員会の任務）

第3条 委員会は、鳥取県附属機関条例（平成25年鳥取県附属機関条例第53号）別表第1で定める事項を調査審議するものとし、委員会の任務の具体的内容は次の各号に掲げる事項とする。

- （1）評価に係る実施方針の決定
- （2）評価項目の作成及び調整
- （3）評価報告書の作成、公表及び評価報告会の開催
- （4）評価対象事業における改善が必要な事項の指摘
- （5）被評価者が作成する改善計画の承認

### （委員の任務）

第4条 鳥取県文化芸術事業評価委員会の委員（以下「委員」という。）は、作品の鑑賞・実地検証及びアンケート調査資料等に基づく評価を行う。なお、評価対象事業の企画・立案に関わる者は、当該事業の評価を行うことができない。

2 委員会は、複数年にわたり改善が認められない評価対象事業について、県に対し補助金支出の妥当性に係る説明を求めることができる。

### （組織）

第5条 委員会は、県民（県内在勤者を含む。）で、調査審議する事項に関し知識又は経験を有する者のうちから、知事が任命する。

2 委員会は、委員15名以内をもって組織する。

### （会長）

第6条 委員会に会長を置く。

- 2 会長は委員の中から互選する。
- 3 会長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 4 会長に事故あるときは、あらかじめ会長が指名する委員が、その職務を代理する。

### （任期）

第7条 委員の任期は2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることがある。

### （会議）

第8条 委員会の会議は、会長（会長が定まる前にあつては委員会の庶務を行う所属の長）が招集し、会長が議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。
- 4 会議には、会長が必要と認めるときは、委員以外の者に出席を求めることができる。

(事務局)

第9条 会議の事務を処理するため、鳥取県地域振興部文化政策課に事務局を置く。

(要綱の改正)

第10条 この要綱の改正は、会議の決議を受けなければならない。

(補則)

第11条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が委員会に諮り、別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成26年1月15日から施行する。
- 2 平成25年度中に任命する委員の任期については、第5条第2項の規定にかかわらず、平成26年3月31日までとする。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成27年7月15日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成28年2月5日から施行する。

平成29年度

## 鳥取県文化芸術事業評価報告書

平成30年4月

〒680-8570

鳥取市東町一丁目220番地

鳥取県文化芸術事業評価委員会（事務局：鳥取県地域振興部文化政策課内）

電話 0857-26-7839

ファクシミリ 0857-26-8108